

富山大学

学園ニュース



特集 ■ 「外国語のすすめ」

特集「外国語のすすめ」

国際社会と外国語	1
外国語の学習の仕方	4
専門教育における語学	10
職場における語学	14
わたしの学習方法	18

わたしの研究室

明るく楽しい考古学研究室（人文学部）	22
教育学研究室（教育学部）	23
わがゼミ仲間（経済学部）	24
物性野郎の世界へようこそ（理学部）	25
われわれの研究室（電子情報工学科電気システムⅢ講座）（工学部）	26

第45回北陸地区国立大学体育大会団体成績表	27
-----------------------------	----

留学生コーナー

留学生雑感	28
留学生指導相談室の組織及び業務	29

トピックス

日本塑性加工学会賞（会田技術賞）を受賞して	31
日本にも原人がいた！？	32
とやま賞受賞について	33

特別寄稿

中国の児童教育及び現状	34
-------------------	----

学生部だより	36
--------------	----

平成4年度就職状況，20才になったら国民年金

授業料免除・徴収猶予のお知らせ，アルバイトの紹介，お知らせ

保健管理センターだより	43
-------------------	----

ヘルン文庫	45
-------------	----

人文学部教授 平 田 純

外国語のすすめ

国際社会と外国語

私の「イルクーツク物語」

— ささやかな

〈民際化〉

実験に寄せて—

人文学部国際文化学科
教授 藤井 一行

「国際化社会と外国語」というのが私にあたえられたテーマであるが、ソヴェト・ロシアという特定の地域の文化（言語・思想・歴史）の研究者にすぎなかった私にこの問題についてなんらかの所論を開陳するだけの資格も力量もあるわけはない。それに国際化というものをどのように理解するにせよ、外国語を駆使する能力が不可欠であることはあまりに自明なことであり、いまさらそのことを論じてもしかたがないように思う。

だからここでは、私にとっての「国際化と外国語」について、とりわけ最近のささやかな私的実験について語ることで責めを果たしたいと思う。

私にとっての「国際化」とは、長年にわたって、なによりも、自国の将来像を描くという問題意識からのソヴェト・ロシアの文化・体制を比較文明

史的に研究することであった。しかしそのためには私には、ロシア語の文献が読めれば充分であった。研究面でも教育面でも〈国際化〉とか〈交流〉とかの必要を感じたことはなかった。〈鎖国〉状態と言論統制下のソヴェト・ロシアでは学者でさえ自分の考えを外国人に語る可能性を奪われていて、かれらとの有意味な知的交流が期待できなかったからである。

状況が変わったのは、ソ連でペレストロイカがはじまり、それにともなってグラスノスチ（言論の自由化）が進みはじめたことによる。たんなる〈交流〉どころか、自分でもロシアの民主主義革命の推進に助力したいと痛切に感じるようになった。

私が〈国際化〉、というよりも正確にはいわゆる〈民際化〉にかかわりをもつようになった直接

のきっかけは、1990年の3月、イルクーツク経済大学で開かれた日ソ・シンポジウムに参加し、同大学で前年の暮れに開設されたばかりの日本語の授業を参観したことであった。30人ほどの学生が文字どおり眼を輝かせて勉強していた。しかし学生たちには教科書もなければ辞書もなかった。日本のかつての寺小屋さながらに教師の手作りの教材を黒板から書き写しながらの学習であった。教師の日本語の学力もそう高いように思えなかった。だが日本語学習にかけるかれらの意欲と情熱はひどく感動的であった。日本の大学でひさしく体験したことのない新鮮な感動であった。

そこで心に決めたことが二つあった。ひとつはこのロシアの学生たちと、私がロシア語を教えている富山大の学生たちとの交流を実現させたいということ。もうひとつは、日本語を学ぶイルクーツクの学生たちに辞書を贈り、かつできれば日本人の日本語教師を現地へ派遣したいということであった。それが私のような一個人でもできるソ連のペレストロイカへの〈民際協力〉の一環のように思えたのである。

帰国して、私がロシア語を教えている教養課程の学生と人文学部のロシア語ロシア文学コースの学生たちに〈日ソ学生交流〉を提起したところ、希望者が何人かあらわれた。まず最初に富山大の側がイルクーツクを訪問しようということになった。金沢大と名古屋大の学生も合流することになった。参加者は17名。宿泊はイルクーツクのホテルで、滞在は5日。費用は約23万円。90年の10月、最初の訪ソが実現した。空港では思いがけなく先方の学生たちが大勢花束を手にして私たちを迎えてくれた。以来、家庭訪問を含め5日間、朝から夜中までの〈熱烈・密着交流〉がつづいた。歓迎の熱烈さに感激したあまり、私たちは、経済大で

日本語を学ぶ学生のすべてを日本に招く、と約束して帰国した。

ロシアの学生を招くといっても私たちにはなんのノウハウもなかった。それはおそらく日本でもはじめての試みであったはずだ。ただソ連の「鎖国」が崩れかけていることだけが頼みの綱であった。ホテルに宿泊させる資金などあるはずもなく、唯一の手段はホームステイである。次の年にホームステイでイルクーツクを訪問したいという学生たちをつのり、その見返りにまえもって交流基金の提供をもとめるという形でロシアの学生たちを迎える資金を捻出した（幸い30名の応募者があった）。ソ連政府の出国ヴィザも日本政府の入国ヴィザも無事にとれ、第一陣は91年の2月に富山にやってきた（渡航費のみロシア側負担）。一週間、充実した交流がつづいた。「鎖国」ソ連からふつうの、つまり特権層に属しない学生たちを現実に日本に招きえたことに私はひどく感動した。

同年の夏にはこちらから予定どおり30人の学生がイルクーツクを訪れた。こんどは2週間の日程、そして念願がかなって、日本語を学ぶロシア人学生の家に滞在。ソ連でもついに外国人のホームステイができるようになったのである。「鎖国」の崩壊を実感させる出来事であった。

こうして富山大でロシア語を学ぶ学生とイルクーツクで日本語を学ぶ学生との相互訪問がはじまり、4年にわたってつづいている。訪問とホームステイとで、両国の生きた文化に接することの重要さもさることながら、交流を通じて将来にわたる血のかよった人間関係が、国境をこえて、さらにこれまでの日ソの冷たい公的な〈国際的〉関係をのりこえて、庶民レベルで生まれてきているその〈民際的〉意味をかみしめているところだ。

この交流の中で考えさせられたことは多い。ま

イルクーツクでも富山でも両国の学生の共通語は主として日本語か英語であった。ロシア語はほとんど使われなかった。日本側の学生のロシア語の学力は意思疎通の手段としてほとんど役立たなかったからである。外国語教育の仕組みの違いを否応なしに見せつけられた。

向こうでは外国語を学ぶということは、ちゃんと学ぶということである。一般教養として外国語を「かじる」ことの意味はあまり認められていないようである。日本語を学ぶ学生たちの一週間の授業時数は、いわゆる実技だけでも8コマほどもある。だから一年も学習すればある程度の意思疎通能力がつく。富山大では（また一般に日本では）、ロシア語ロシア文学コースという専門課程にあってさえ、授業時数こそロシアなみに多くとも、授業の重点は文献読解におかれている。だから学生は日常の挨拶でさえろくにできない。

日口の学生交流、とくに学術面での交流をすすめるためには、富山大の学生側のロシア語の力、とりわけ話し聴きとる力を飛躍的にのばすことが必要であると痛感された。しかしそれを主目的として富山大のカリキュラムをあらためることは現状では不可能に近い。そこで考えたのは、それに近い環境・条件をつくりだすことであった。

まず富山に長く滞在できるロシア人を招くということ。幸い、文部省が国費の外国人留学生を募集していたので、その制度を活用することを思い立った。幸いモスクワから大学院研究生を招くことに成功した。この研究生にはロシア語の正規の授業も担当してもらえた。つづいてイルクーツクから日本語・日本文化研修生（学部学生）を招くことにも成功した（現在、第二陣がきており、この10月には第三陣がくる）。かれらは富山大の学

生とほぼ同年齢であり、すでにかなり日本語ができる。富山大のロ文コースの授業にも出ている。富山大の学生たちの学習への刺激は絶大である。ロシアの留学生との日常の交遊は、富山大の学生にとってもっとも身ぢかな〈国際化〉であり、生きたロシア語習得のうってつけの環境である。

ついで思い立ったのは、イルクーツクへ富山大の学生を留学させることであった。100万以上の学費をおさめてのロシアの大学への私費留学の制度はまえからできていたが、私が考えたのはいわば〈民際協力・交流〉としての学生派遣である。つまりイルクーツクの大学で日本語を教え、その見返りにロシア語を教わるといういわば「交換教授」である。幸いイルクーツクの外国語教育大学がこの提案を受け入れてくれた。渡航費は日本側の負担だが、先方ではただで大学の寮に住まわせてもらえる。こうしてロ文の現役の学生4人がいまロシアの大学で日本語教育という初体験に挑んでいる（ほかにロ文の院生と言語学コースの学生も行っている）。自主的にホームステイを選んでロシア語習得にいっそうみがきをかけている学生もいる。かれらは、新生ロシアで、しかもシベリアの僻地で活躍する数少ない〈国際化〉のチャンピオンだ。この9月、一年の任期を終えて帰国・帰学する。留学しなかった学生たちとの合同の授業が待っているが、どんなことになるのか楽しみでもあり不安でもある。かわりに同じ9月、新たに4人の女子学生がやはり教師兼留学生としてイルクーツク外国語教育大学へでかける。

この「イルクーツク物語」にどんな結末が用意されるか、それはこれからの日ロ民際交流をにやけてくれる学生諸君にかかっている。

(1993・8・20)

外国語の学習の仕方

英語

英会話自習のすすめ

人文学部人文学科

助教授 湯川純幸

「英語をしゃべれるようになりたい」とか「しゃべれるようになっとかないと、就職や仕事の上で困りそうだ」という意識は、今の大学生の誰もがもっているようだが、(英語教官としての責任を一時棚上げにして言わせてもらえば)、富大の学生には、ちゃんと自分で手を打って、ある程度の会話能力を身につけて卒業する者はまだまだ少ないようだ。そのうち英会話をやるかやらされるかするのなら、受験勉強の記憶新しい今は始めるのが一番いいに決まっている。必要性を感じていながら、まわりの友達も何もしてなさそうだというようなことでやらずじまいにする人が多いとみえる。

英会話の練習というのが実際にはどんな作業なのか、もう少し具体的なイメージを持って考えてもらえればと筆をとった次第。

「学校英語」との二つのちがい

「英会話」というと、これまでしてきた英語の勉強とまったく違ったことをやるかのようなイメージを抱いている人がある。また逆に、英語がこれ

まで苦手だったから英会話もはなから諦めている人も非常に多い。「英会話」の英語は、いわゆる学校英語とどこがちがうのだろうか。僕の(独断的)考えはこうだ。

一番大きな違いは、これまでの英語の勉強で、字を意味と結びつける練習ばかりしてきた(人が多い)のに対して、会話では、音を意味と結びつけることだ。(例えば、教科書のもう読んだ部分のテープだけ聴いて意味が聴きとれるようなら、この音と意味の結びつきができている証拠だ)。この結びつきを作るための練習法には最後でふれよう。

読み書きは割にのんびりやられていられるが、会話では、相手の発する音はつぎつぎ消えていくし、相手はつぎつぎしゃべり続ける。いちいち「話しの間(ま)」の抜けてしまう会話しかできないでは、生まれうる人間関係も限られたものにならざるをえない。

二つめの違いは、読み書きには文法の力が絶大な威力を発揮してくれるのに対し、会話には、文法と語彙の力だけではだめな部分もあるということだ。文法に従って自分の思うことを文にしてい



く作業はもちろん重要だが、もう一つ、その時々
の場面や用件に即した決まり文句の力で会話を効
率よく進めていく部分がある。

後者の決まり文句には、文法から随分はずれた
ものもある（Cf. “I have not seen you for a
long time.” と、同じ意味の “Long time no
see.”）。だから、一つずつ覚えるしかない厄介
な代物だ。それに、これらは、（「ハクション」
ときたら “Bless you!” とやるように）間髪を
入れずに出てこないといけない。会話のスピー
ディな展開や話者間の親密感を保障してくれるの
だという。一つでも多く使えるようにしとかな
いと会話が苦しい。

会話番組を暗唱しよう

では、どんな練習で力をつけるか。英会話には、
さっき言った文法（これは諸君はまずOK）や語
彙、決まり文句などの武器と、英語を実際に使っ
た経験の蓄積の両方が不可欠。「実戦」の機会
の方は、得るも得ないも本人の意志しだいだから、
ここでは、「武器」を仕入れる練習法を考えよう。

会話の授業を受けているだけ、会話番組を視
（聴い）ているだけでは、聴きとれる表現が少し
ずつ増えるだけで、何年たってもしゃべる力は
大して伸びないようだ。卒業までにある程度しゃべ
れるようになりたければ、もっと積極果敢な作戦
しかない。

それは、会話の例を山ほど暗唱することだ。しっ
かり叩き込んだものでないと口をついて出てこ
ない。放送やテープを聴いて、意味と正しい発音
を頭に入れてから、スラスラ出てくるまで暗唱す
る。本や市販教材より、放送の講座のほうが習慣に
しやすいかもしれない。テレビ、ラジオ合わせて数
種類ある中から自分に合うのを選ぶ。テキストを
見比べるだけでなく、一度実際に視（聴い）て
みることをすすめる。（訳がついてあるだけでなく）
意味の説明がていねいで、一文ずつの発音練習を
何度もさせてくれる講座がよいと思う。一週間に
一、二回のより、月一木が日替りで金が復習なん
てのがいい。（やさしいめのから始めたい人には、
「上級基礎英語」がおすすめ）。毎日その日の放
送分を覚え、前日までのも復唱する。小一時間か
かる。一週間で一区切り。一年は続ける決意で始
めよう。効果のほどは保障つき。

購読の授業で会話の基礎作り

音読しない人は望みなし。たいていの教科書に
テープがある。先生からお借りしてコピーする。
本を見ながら／見ずに一文ずつリピート。本見
ずに意味の聴きとり。（最後のはハードだが）本
見ずにテープを聴きながら自分でも発音（一文
ずつではなく続けて。意味が分かってたらでき
るようになる。では、GOOD LUCK!

フランス語

フランス語のすすめ

人文学部言語文化学科
助教授 村井文夫

ファッションやバレエのような華やかな世界から哲学をはじめとする学術研究のような地味なものまで、フランスの文化や文明の精華は絢爛と咲き競うと同時にどっしりと深く根を張ってもおり、だからこそ一度でもフランスを訪れた人はその魅力の虜となって、もっとよくその言語や文化を知りたいというやみがたい欲求にかられるのでしょう。

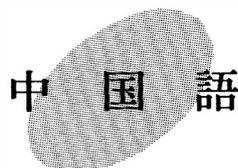
知りたい、近づきたい、そしてさらにはそこで認められたいという欲求に、フランスほどある意味で寛大にこたえてきた国もないと言えますし（有名なデザイナーのカルダンが外国人であることを知っていますか）、鷹揚な懐の深さはまた、いつのまにかそれを自らの文化に吸収してしまう鍛えられたしたたかさを秘めているとも言えるでしょう。

ところでフランス語はフランスだけの言葉ではありません。ベルギーやスイスの一部にもまたがっていますし、また古くからの関係でカナダ、西インド諸島、北アフリカ（アルジェリアなど）、インド洋の島々（レユニオン、モーリシャスなど）、ベトナム、カンボジアにいたる広い地域、国々とつながりを持っています。さらに共通の根（ラテン語）によってイタリア、スペイン、ルーマニアなどとも近い関係にあります（イタリアやスペインを旅行すると英語は駄目だがフランス語なら意

志疎通できることが多い）。

このようにフランス語という一つの窓はフランスに向かってひらかれていると同時に、フランス及びフランス語と関わる沢山の地域や人に対しても開かれているといえるでしょう。それだけではありません。イギリスやドイツなど近隣の様々な面で大きな違いをもつ国々の文明や言語との軋轢や緊張を受け止め耐えぬき鍛えられたことがフランス語の柔軟かつ強靱な力を作りあげてきたともいえるのです。

ところでフランス語に限らず未知の言葉に親しむことは、登山（一步一步こつこつと上昇する）、遊戯（頭と体両方つかうから）など様々な比喻によって言い表されます。ここでは鏡のように澄んだ湖の水面に映る山の影というイメージ（美しすぎる？）をあげてみたいと思います。映った山の姿は影にすぎないと言い切る人は本物の山を求めてどこかに行ってしまう。とって手を伸ばして水面に指が触れると影は揺れて壊れてしまいます。ではどうすればいいか。水面に心を潜ませるのです。これは呪文のようにみえますが、実感の素直な報告です。信じられない？しかし何かありそうな気もする？もしそうなら一緒にやってみましょう。新しい体験が待っています。



中国語

中国語の勧め

人文学部言語文化学科

助教授 上野 隆三

中国語は漢字を用いる言語である。そして日本語も漢字を用いる。したがって読めば意味は理解できるという考え方はかなりの部分で正しいと言えよう。例えばこの文章でここまで書いてきたうち漢字の熟語を中国語に直してみると、「当然」、「漢字」などは中国語も全く同じである。また「中国語」は“漢語・中国話”，「言語」は“語言”など、全く同じではなくても理解はできよう。しかし「意味」は中国語では“意志”であり、これは誤解しやすい。このほか，“他”が「彼」という意味であるように全く日本語とは異なる語ももちろん多い。しかし外国語を学ぶ場合に知らない単語を覚えるのは当然のことだし、見ただけで意味がわかる単語がかなりあるだけでも、他の言語を学ぶよりは容易であろう。大体誰もが高校で学んだ「漢文」は中国の古典文であるのだから。

漢文の話が出たついでに文法のことを少し述べておこう。漢文の返り点というのはなぜ必要か。簡単に言えば日本語がS+O+V（主語・目的語・動詞）の語順であるのに対して、漢文はS+V+O（主語・動詞・目的語）であるからである。その語順は現代中国語も同じだし、英語とも同じである。では文法的に英語に近いのかということも必ずしもそうではない。例えば英語では、“I love him.”の主語と目的語を換えると“He loves me.”だが中国語では“我愛他。”と“他愛我。”である。つまり代名詞も動詞も英語のような形態変化をしないのだ。もっとすごいことに中国語の動詞

には過去形も未来形もないのである。「中国語には文法がない」と極論する人もいるくらいだが、しかしそれは英文法が普遍的な文法であるという思い込みがあるからにすぎない。従って中国語を学ぶ際には、日本語とも英語とも異なった言語を学ぶのだという意識は必要であろう。

日本人にとって中国語は読解能力を身につけるには容易な言語であるとしても、会話能力を身につけるには非常に困難な言語である。漢字は表意文字であるので、見ただけでは発音はわからない。そこでアルファベットの発音記号（ピンイン）がある。例えば「中国」はZhōngguó（チョンクオ）という具合である。しかし発音記号のついている文章が読めても会話ができるようになるわけではない。では発音やヒアリングの能力を高めるにはどうすればよいか。現地に行くのが最善の方法であるのは他の言語と同様であるが、国内ではテレビ・ラジオや視聴覚教材を利用してとにかく発音と聞き取りをくりかえし練習するしかない。しかし実はもっと良い方法がある。それは中国語を母語とする人と友達になり、中国語を使ってみることである。諸君には幸運なことに、富山大学に來ている留学生のうち半数近くは中国語を話す人たちである。勇気を出して、留学生に声をかけること、そして下手な中国語であっても恥ずかしくがらずに使ってみることで、それが中国語会話習得の近道である。

朝鮮語

朝鮮語の勧め

人文学部言語文化学科

講師 岸田文隆

朝鮮語は、隣国朝鮮の言葉で、総計6000万人以上の話者を持つ世界でも有力な言語のひとつであるが、最近、日本でも善隣友好の方途としてこの隣国の言葉を学ぶ人が増えてきている。以下、日本語を母語とする者が朝鮮語を学ぶ場合に問題となる点を述べてみたい。

1. 音韻

朝鮮語の音韻体系は、日本語よりも少し複雑で、ソウルの若い話し手の場合、単母音は7 [a, e, i, u, o, ə], 子音はわたり音を含めて21 [p, pp, ph, t, tt, th, c, cc, ch, k, kk, kh, m, n, ŋ, s, ss, r, h, w, y] である。母音の区別はあまり問題にならないが、子音には、音節初頭で平音・帯気音（激音：息を激しく出しながら発する音）・声門閉鎖音（濃音：声門を閉じながら発する音）の区別、また音節末尾で3つの内破音 [p, t, k] と3つの鼻音 [m, n, ŋ] の区別があり、その発音や聞分けは大変難しい。この区別を習得することが、朝鮮語学習者の第1の難関である。

2. 文字

1443年に李朝第4代世宗大王によって創製された朝鮮の文字、訓民正音（ハングル、チョソングル）は、「世界で最もわかりやすく合理的な文字」と言われるが、初学者にとってはこの文字を覚えることは結構難しい。それは、字母の数が言語の

歴史的な変化によって実際の音素の数と齟齬を来たしていたり、また、現行の綴字法が表音主義（単語を発音する通りに書く）を採らずに形態素主義（発音には拘りなく同じ意味を表す部分は常に同じように書く）に従っているため、個々の字母の発音を知っているだけでは単語は読めず、様々な音韻法則も同時に覚えなければならないからである。この文字と正書法、音韻法則を身に付けることが学習者にとっての第2の難関である。

3. 文法

類型論的な観点からは、朝鮮語は日本語と極めてよく似た特徴を示している。語順は、SVO, adjunct-headで、後置詞を持っている。したがって、日本語と同じように単語を並べていけば大体は正しい文になる。しかし、ある程度勉強が進むと、細かい所で日本語と語順が異なる場合や後置詞（助詞）の使い方が微妙に異なる場合に出会い、戸惑うことがある。中級の段階では、日本語を逐語的に訳していけば朝鮮語になるという考えはむしろ捨てた方が良くかも知れない。朝鮮語的な表現に慣れ親しむことが重要である。

朝鮮語に限らず外国語の習得には、理屈よりも丸暗記が適している。北京では日本語を勉強する人が朝の5時から公園に集い教科書を暗唱して学習に大変な効果をあげていると聞く。朝鮮語の学習にも、この北京方式を採用することを勧める。

ドイツ語

『国際化時代とドイツ語学習』

教育学部教授 瀧澤 弘

時代は「国際化」に向かっている。学生として、英語以外にもう一つ他の外国語を修得する必要性は今更論ずるまでもない。

しかし、期末試験の出来の悪い答案の片隅に、「僕は国際化時代に必要なドイツ語を習いたかった。大学では、面白くもない文法・作文・講読ではなく、役に立つドイツ語を教えるべきだ…。」などと書かれる事も稀ではない。確かにマスコミが、国際化キャンペーンを始めると、平行して大学での外国語教育批判は喧しくなる。路上で外国人にトイレの場所を聞かれても理解出来ず、満足に答えられないということらしい。これは事実であろう。一方マスコミは、国際化の象徴『～の翼』の団体旅行やホームステイの記事では、外国人と大勢で肩を組み、ビールで乾杯する写真の説明に「言葉は通じなくても心と心で理解し合い…」と草の根の友好を讃える。しかし、こうした場合の「国際化」や相互「理解」の中身は何を意味しているのだろうか？

紙面が限られているので結論を急ごう。海外旅行や日常生活の場で必要な外国語は、読解力に較べてやさしいものである。商取引を含め日常交わす会話は案外に単純であり、幾つかのパターンの組合せで、こと足りる場合が殆どである。難しいのは、内容豊かな書物の理解、論理的内容の発言

である。

学習にも演繹と帰納の方法がある。ドイツ語でも Guten Tag! Wie geht es Ihnen? から始める帰納的学習は確かに必要であり、しかも当座は楽しい。しかし、この方法のみでは、週2コマ授業の現状では、その言語で表現された創造的文化の一端を理解し得る能力をつける迄には何年の歳月を要するのだろうか？ドイツ語の文法は読解と表現には不可欠であり、文法の基礎知識なしには辞書も利用できない。もちろん読解力や表現力なくして役に立つ外国語は有り得ない。語形変化が多く複雑な文法の学習は上述の方法に較べて若干苦しいかも知れない。とはいえ文法も、1コマの授業内容は40分の補習で充分であり、また一定の基礎的単語が必要であるが、これも1コマ時30個の単語を覚えれば、うち10個は忘れても半年で500個以上になる。これを僅か1～2年続けたとき、修得したドイツ語は、真の国際相互理解の一助になるはずである。

ちなみに「国際化」時代と呼びながら、日本語の「国際化」にあたる英語やドイツ語が存在しないことを知る人は少ない。internationalize や internationalisieren は他動詞であって、いまわれわれが使用している「国際化」とは全く異なった意味である。

専門教育における語学

工 学 部

工学部電子情報工学科
助教授 上 羽 弘

工学部電子情報工学科、電子コースでは3年後期に電子工学研修第1という科目で数人のグループに分かれ、各講座の研究分野に関係した英語の論文を輪読することから専門課程での外国語教育が始まる。さらに、4年になると電子工学研修第2という科目が続くが、私の属する講座（物性デバイスI）では卒業研究のテーマに関係して内外の専門誌に発表された数編の論文を読んでもらい、発表してもらっている。次の文章は今年の学生に渡した論文の冒頭部である。

“Advances in SiGe-Molecular Beam Epitaxy has allowed the growth of high quality strained monolayer superlattices. Due to the 4.2% lattice mismatch between Si and Ge, layers of either material can be pseudomorphically grown only up to a critical thickness.

当然のことながら、4年生がこの文章を正しく訳し、その内容を説明することは困難である。それはこの英語が難解なためでも、あるいは学生の英語力が十分でないためではない。卒業研究を中心として英語の論文を読むために、大学受験で求められたような難解な英文を訳す英語力は必要としない。しかし、辞書に載っている日本語訳をそのままつなげても適切な日本語にならない場合が多い。例えば、上の英文に“superlattice”という単語があるが、これは“super”（辞書には上、超、過度の意味の接頭語とある）と“lattice”（格子）からなる単語であり超格子と訳すが、その意味は超格子という内容が理解できなければ正

しく訳すことが出来ない。これは単原子層（monolayer）を数層ずつ交互に積層した人工的な周期構造を意味する。“critical thickness”や“pseudomorphically”についても同様である。例えば、“derivative”という単語は物理や数学科の学生なら即座に“微分”，化学系の学生なら“誘導体”と訳すであろう。また，“transition”という単語を辞書で調べると“移り変わり，変遷，推移，転調（音楽）”とあるが、理工系の分野ではこれらはいずれも適切な訳ではなく、その内容により“転移，あるいは遷移”と訳される。つまり、専門課程における英語教育とは“英語”の教育（勉強）ではなく、“専門分野”の教育（勉強）に他ならず、専門用語を理解するための基礎的な勉強がいかに行われているかにかかわっていると言えよう。私は2年後期から3年後期までの3期にわたる一連の講義の中で基本的な専門用語に対応する英語を努めて示すようにしているが、入学後のできるだけ早い時期（従来のカリキュラムでは教養部）から、外国語の必要な単位数のいくらかは学生諸君が進もうとしている専門分野に関係した解説論文などを題材にした授業が望ましいと考える。

編集委員の先生からこの原稿を依頼された数日後、研究室の学生諸君と専門課程での外国語教育について意見、希望などを聞きながら雑談しているとき、学生の一人がAERA（6. 27号）を見せてくれた。その中の特集記事の見出しは“東大で始まった英語革命一使いものにならぬ大学教養英語に訣別”であった。

経済学部学生と英語

経済学部経営法学科

教授 滝川 敏 明

英語に親しむことを経済学部の学生にすすめるのは、英語が社会科学と国際ビジネスの標準語になっているからである。まず社会科学においては、一部の分野を除いては、各国学者の近年の主要研究成果は英語により発表されている。関係情報の国際データ・ベースも英語によっている。日本人学者の論文と翻訳文献だけに頼って研究していると、底の浅い研究しかできない。学部学生のレポート程度の研究は、日本語文献だけでも何とかまとめることができる。しかし、就職してから、会社での業務に必要なレポートをまとめる場合には、日本語文献だけに頼っていると、早い段階で調査が行き詰まってしまう。日本の経済力が高まって、日本語のわかる外国人が増えているので、日本語の国際語化がすすんでいると誤解する人も多いと思う。しかし、社会科学と国際ビジネスの分野では、英語の勢力がますます拡大しており、国際標準語化しているのが現実である。

国際ビジネスの分野で英語の勢力が圧倒的であるというのは、近年に何回かヨーロッパに調査出張に行ったときの経験からの実感である。昔からドイツ人、オランダ人およびスカンジナビア諸国の人々の多くは英語を自由に操っていた。最近年においては、これまでフランス語至上主義だったフランス人の中にも英語のたくみな人が増えてきている。アジアでは、ヨーロッパ以上に英語が国際ビジネスの標準語となってきている。近い将来

には、中国とロシアのビジネスマンが英語で商談を交わす姿が見られるだろう。

日本の企業は、伝統的な終身雇用制が崩れて欧米的な能力主義に変わる傾向がはっきりとしてきている。この傾向が強まると、欧米企業と同じく日本の企業も、ホワイト・カラーがスタッフ（調査・企画などの頭脳労働者）とライン（伝票整理などの繰り返し業務担当者）に区分されていく。スタッフとして生き残るための最低条件として、英語ができることが要求されている。

英語ができるようになるためには、勉強と変わらないで、日常生活の一部として英語と接触する機会を増やしてほしい。読書、テレビ、音楽、映画などに費やす時間の多くを英語によって過ごすほど、英語に熟達することになる。そのための基礎的な能力を身につけるためには、大学の英語教育だけに頼らず、ラジオ・テレビの英会話番組、二カ国語放送などを活用してほしい。例えば教育テレビの「セサミ・ストリート」は、自然な形で楽しく、英語特有のリズム感覚を身につけるのに好適な番組である。また、教育テレビの「英会話Ⅱ」は、アメリカの文化・経済について自然な英語でのルポを行っていて、興味深い。ここに挙げた番組は、いずれも、日本語を介在させず英語だけにより構成されていることに特色がある。日本語に翻訳せずに英語を直接に理解する習慣をつけることが、英語上達の秘訣である。

理 学 部

理学部生物圏環境科学科
教授 小 島 覺

自然科学分野において外国語はふつう研究の対象ではなく手段である。いかに相手の言うことを理解し、自分の思いを正しく伝えるか、その技術を学ぶことが自然科学における外国語教育である。外国語といっても私たちの多くが日頃接するのは英語であり、それもほとんどは文章である。そこで私の経験から、どうすれば英文の読み書きが少しでも楽になるか、参考までに述べることにしよう。

自然科学分野における英語の論文や専門書は決してそんなに難しくはない。慣れれば日本語よりはるかに分かりやすい。論理が明快で具体性があるからである。ただ始めのうちは知らない単語が多いことや、英文に慣れないために苦労する。

英文を前にして、1行目から単語一つ一つを丹念に辞書で引く人が多い。英語の授業ならばともかく、論文を読もうというとき、それでは始めの半ページで厭になってしまうだろう。最初3回ぐらい、辞書を持たずに始めから終わりまで一気に目

を通すことを勧めたい。どうせ専門用語はふつうの辞書には載っていない。とにかく流し読みすることで、おぼろげながらも全体像をつかむことが大切。そのうち、どうしても気になる単語、知らなければ済まない単語が見えてくる。そこで辞書を引く。専門用語については用語集か、先輩や先生方に聞くしかないだろう。だがこうして覚えた単語は案外忘れないものである。

英文は全体がいくつかのパラグラフに分かれている。実はこれが大切である。パラグラフは決してでたらめに区切ってあるのではない。ひとまわりひとまわりの内容が一つのパラグラフに収められている。だからパラグラフからパラグラフを、飛び石のようにたどっていくことで、次々にいろんな論点が展開し、パノラマのように全体が見えてくる。しかも英語の文章ではふつう、パラグラフの冒頭に結論や重要な論点が示されている。だから冒頭の文章はとくに大切に、急ぐとき、面倒くさいときなど、冒頭の文章を拾い読みするだけ



で、おおよその内容が分かる。

英文作成のコツは、短く易しく具体的に書くことにある。できるだけ単文で済ます。仕方のないときだけ関係代名詞を使って複文にする。専門用語はともかく、決して難しい単語を使う必要はない。むしろ難解な単語は避けるべきだろう。具体的に書く。これが結構難しい。自分が何を言いたいのか、相当に明確かつ具体的に分かっていないと、ここができない。日本文ならば、あいまいな言い回しでごまかすこともできるが、それでは英文にならない。それをごまかせるだけの語学力があるなら、この文章を読む必要はない。

結論をまず冒頭で述べることも大切だろう。それから説明や理由を次々と並べればよい。とにか

く大事なことを最初書き、どうしてもよいことは後へ後へ回す。それを始めに書いてしまうから、なかなか結論にたどり着けず、そのうち收拾がつかなくなる。

ある程度の要領さえ覚えれば、英語は日本語よりはるかに簡単明瞭で気楽に使える言語である。だからこそ英語が広く国際化したのだろう。ただ言語が意思や情報伝達の手段である以上、英文を読むにあたって、そこに何が書いてあるか興味しんしん、まず知りたいという強い好奇心を持つことが大切だろう。ちょうどプレゼントを貰って、中に何が入っているかワクワクしながら包みを開いていく、そんな気持ちで英文に臨むことである。

職場における語学



教育学部 昭和53年度卒
月岡中学校教諭 辻 明 美

私は、富山大学教育学部3学年在学中である1974年から1年間、文部省大学学術局の教員養成大学・学部学生海外派遣制度により、教育学部では最初のドイツ留学生として、ロイトリンゲン教育大学に留学いたしました。

1年間の留学で私が感じましたことは、外国語は異文化を理解するための最も大切な手段であるということです。またそこに発想や見方の違いを見つけ、見つめれば見つめるほど、本質的にまるで違う外国の文化に驚くと同時に感嘆をし、自分たちの生活や文化とは一体何なのかを想わずにはいられませんでした。

帰国後は専攻科に進み、卒業後は富山市内の中学校で音楽教師として勤務しております。私は現在担任をしていますが、外国語を学び、それで得た様々な知識や体験は、職場で生徒たちと接するときに大変役立っています。例えばドイツでの教育実習は、グルントシューレ（基礎学校）で行いましたが、そのとき実感した教育の違いは、とても大きかったことを思い出します。

簡単に説明しますと、普通教育と職業教育の専門分化が早く、その職業の専門家をよく育てる教育体系のドイツと早くから専門分化させず、いろいろな方面に進める可能性をのちのちまでのばす『つぶしのきく』人間を養成する日本の違いです。

しかし途中から容易にコースの変更が可能なドイツに比べ、一度コースを外れたら元のコースに戻ることが難しい日本の教育体系は、とても問題があると思いました。

このことは、3年生の進路指導の時期になると痛切に感じます。生徒たちには『どこを出たかという形』にこだわらず、『何を勉強したか』が大切で、力をつけ、自分なりに生涯をかけて成長していくことの大切さを訴え続けています。

音楽の授業でドイツ音楽を扱うとき、そこで学んだ者として、いろいろな話はできると思いますが、それは決して書物から得られたものばかりではありません。ドイツでの大学の講義、そして様々な会話の中から得られたものです。これらは語学という媒体がなかったら決して得られなかったものです。

ドイツ人がよく会話の中で使うビルドゥング（教養）、クルトゥール（文化）は、語学力が不足するとき、理解を助ける大事な要素ですが、それもない場合、会話が成立しません。いわゆる「以心伝心」は通用しません。語学力を補う教養と教養を高める語学力の大切さを今、職場でも感じています。また、自国の文化理解にもっと努力していかなければならないと強く思っています。

私と英会話



前 北陸銀行専務取締役
財団法人北陸経済研究所専務理事 小川 弘

終戦と同時に極東放送（FEN）を耳にしたのが英語に触れた最初である。翌年、平川唯一のラジオ英会話が始まり、これが英会話をはじめの切っ掛けとなる。それから今日まで、実に47年間もラジオ英会話を聴きつづけていることになる。

最初はなんとか洋画を字幕なしに理解したいものだとの思いであった。しかし、これはなかなか大きな攻撃目標で、今だに目標に到達していない。しかし、ダイアログを何回も読んでから映画館に出かけることが多くなり、なんとか会話のスピードについていけるようになった。

すでに、ラジオ英会話をきき始めてから18年たった昭和39年、バンク・オブ・アメリカのトレニーとして米国に派遣され、サンフランシスコ国際空港に到着。出向えてくれた人が当然英語が分かるものとして話しかけてくるが、通じない。「キャンドル・ステック・パークで村上が昨日良い仕事をした」といわれても、何のことか分からない。そこで聞きかえせばよいのに、それが出来ないばかりに英語の分らぬ研修生にされてしまい大きなショックを受ける。

何回も何回も痛い経験をしている間に、なんとか英会話が出来たようになったという実感をもったのはニュー・ヨークで家族と一緒に5年間生活

してからのことである。

すでに、ニューヨークから帰国して10年が過ぎ、今日も犬と散歩をしながらラジオ英会話を楽しんでいる。

会話は毎日楽しく継続し、さらに経験を積極的に積むことが上達のコツである。

さらに、仕事に役立たせるには専門用語を正確にものにする勉強が必要で、当然学生時代の原書講読が基礎になってくる。一冊でも完全に読んだという自信があれば、あとはその積みかさねである。タイムやニュース・ウィークの講読も楽しみながら読書力をつけることができると思う。

英語に馴染んでいたことが仕事の上では時として大きく役立つ場面が回ってくることもある。とくに、私の場合、国際金融業務に長らく関係していたこともあり、その機会が多かった。多分、他の仕事に関与していたとしても程度の差こそあれ同じであろう。

現在、富山日米協会や富山市民国際交流協会などでボランティア活動のできるのも語学を継続的にやってきたためだろうと思っている。さらに、ハングル語、中国語、ロシア語にも挑戦中で、なんとか環日本海時代についていきたいと念じているところである。

「私にとっての外国語」



理学部地球科学科 昭和56年度卒
勲とやま国際センター 中村 則 明

昭和55年11月。友人に誘われて青年海外協力隊の募集説明会に顔を出した。外務省の外郭団体である国際協力事業団が実施しているこの事業についての知識はそれまで全くなかった。富山に生まれ富山で育ち富大で学んだ私にとって、海外それもアフリカで2年間国際協力活動することは、将来必ずプラスになると思え、試験を受け卒業後協力隊に参加することになる。

ガーナでの仕事は現地の高校の理科教師。思えば教師未経験の私が物理や化学を英語で教えるとは大胆な行為であったと思える。しかしこの経験が英語での自己表現を可能にした。昭和58年に帰国し曲折を経て現在の職場に就職することになる。この間、地球科学科の諸先生に多大なご迷惑をおかけしたことをこの場をお借りしてお詫びしたい。

勲とやま国際センターは昭和59年に設立された公益法人で富山の国際化に一役買っている。毎年海外からの技術研修員や留学生を受け入れ、今年ケニア、ザンビア、ネパール、フィリピン、ホンデュラス、中国、韓国、ブラジル、アルゼンチンそしてロシアからのメンバーの富山での生活指導を担当している。英語だけでなく各国語が飛び交う職場である。

今回10年ぶりにガーナにきて、この原稿を書いている。訪問の目的は、日本に留学した経験を持つガーナ人とガーナで生活した私たち協力隊OBが互いに協力して、日本とガーナ双方に有益な交流プロジェクトを探ることにある。そしてこの交流プロジェクトをアフリカ全域に広げる夢をもっている。

10年ぶりに訪れたガーナの経済は良い方に大きく変化した。首都アクラばかりか、私の任地であったソガコフェでも簡単にタクシーを拾える。公務員の初任給は、米ドルに換算すると100ドルぐらいでまだまだ十分とは言えないが、街には物があふれてきている。

私が物理と化学を教えていたソガコフェという小さな町は、ガーナに10ある内のボルタ地域に属しエウエ族が多く住んでいる。ガーナの公用語は英語ではあるが、ソガコフェでの交流を考えた場合、現地の人々が話すエウエ語を理解する必要がある。

私にとっての外国語は、それを母国語とする人々との交流の道具であると考えている。その道具を使い更に深い交流が促進できるものと確信している。



工学部工業化学科 昭和59年度卒
 工学研究科工業化学専攻 昭和61年度修了
 関西ペイント㈱ 赤木 雄

私は86年に工学研究科を修了し、関西ペイントに入社致しました。以来8年間、有機合成及び高分子合成に関する研究部門に席を置き、重合用モノマーの合成研究などを行っています。そして90年から92年までの2年間は会社の好意に甘えドイツStuttgart大学に留学しイオン重合の研究を行ってきました。学生時代、すべての成績が末席であった私の苦手教科というのも変ですが、実は『有機合成』と『語学』は大の苦手科目であったのです。しかし皮肉なことに今ではそれらが私の「飯の種」となっているのです。ここでは私の『語学』に関する8年間の日記の一部を御紹介させていただきたいと思います。

(85年5月)入社して間もない研修期間、上司に「これが君の実習テーマに関する文献だよ、明日までに読んでおいて」と手渡されたものは、英文文献が15報束ねられたものだった。(86年7月)「会社で費用は負担してあげるから」と甘い言葉を囁かれ、TOEICと言われる英語検定を受けさせられたが、「点が悪い」と上司に怒鳴られた。(87年5月)ダイ関西ペイントから研修に来た人を半年間、アフター5の面倒をみた。変な英語で語りあうアジア人2人はさぞ滑稽であったであろう。(88年)入社して3年。海外の原料メーカーが商品説明に来社することが多く、このころから英語の必要性を感じ、会社の英会話教室に通い始

めた。(89年)ドイツ留学が決定。ドイツ語会話を始めた。午前中はドイツ語、午後は仕事といった生活が半年続いた。(90年)ドイツへ留学。アパート契約、家具販売などすべてを自分で行った。住民票登録の場所がわからず、警察で聞いた時、言葉の足りない私は反対に不審な外国人として尋問されてしまった。しかし、この間にたくさんの友人知人(たぶん20ヶ国以上)ができて至上の体験ができたと思う。(92年)帰国。10月色材協会の国際会議で発表。そして当社の樹脂をある外国企業へ技術供与する事が決まり、その担当者となる。間もなくノウハウの供与が始まる事になっており、いつでも海外出向できるよう、家族で心の準備をしている。

最近、私はボーダーレス時代の到来を深く感じます。そして日本の習慣が極めて異質であることにも気がつきました。日本で美徳とされている「不言実行」は国際社会では通用しないのです。「自分の考えをはっきり述べ、実行する事」これが国際社会に参加する第一歩なのです。私は常々『語学』とは相手とコミュニケーションすることであり、「話す」ことが「読み書き」よりも重要であると考えています。難しい文法を覚えるのではなく、積極的に外国人と話をし、その文化、考え方を知る。これこそ、本当の『語学』ではないかと思うのです。

わたしの学習方法

友人の助言



教育学部4年 増田延子

多少語学の勉強をした人というのは本当に外国に行った時、まず自分の未熟さにショックを受けると言う…。

ここに一人の女の子がいた。志だけは高かったけれど彼女の語学力と云ったら、それはそれは『最悪』だった。もっとも本人はそのことを十分知っていたから、(幸いにも) Gott Sei Dank ; 先に言ったようなおごり高ぶったことなど考えてはいなかった。彼女の考えていたことはただ『ともかく人と積極的に会話し、いつでも言葉を習うのだ。』ということだけだったし、限られた時間の中で一生懸命やって『他の人を驚かそう。』という目標があった。何事においても心がまえ、目標は大切である。

性格というの大きな影響を与えるものだろう。日本人というのは一般的に外国の人々に弱い。勇気を出して人と接し、言葉をかわすことによって、自分を知ってもらい、さらにその会話のテンポがあるにつれその溝は浅くなっていく。外国の人が話しかけてきただけでもお、ものおじし頭が真っ白になるのではちょっとさみしいね。社交的で明るい彼女は会う人ごとに話かけていったし、挨拶はいろいろな人と交わして、人と接する時間を大切にしていた。それでもなかなか単語を憶えられないし、聞きとれないので、がっかりと頭がたれる日もあった。そんな彼女に友人はやさしく、「外国語を勉強するのは大変だよ。人は七回単語

を聞いては忘れ、八回目でようやく憶えられるんだ。くりかえすことだよ。」と言う。七転八起って日本語のことわざにもあったよね。彼女がはげみとなった友人の言葉としてもう一つ、「最初は、『えっもう一度!』とばかり言っていたけど最近言わなくなったね。がんばってるね。この数ヶ月でたくさん勉強したよ。すごいね。」…ほめられることは誰にとってもうれしいことである。彼女はとりわけ単純な性格であった。

ある程度話せるようになって楽しいのは、日記をつけること。もちろん外国語で。彼女の友人でいつでも、どこでも、24時間日記帳を持ち歩いていた子がいた。友人と一緒に、「今何をしているのか」とか「新しい単語」をすぐその日記帳に書きこむのである。書くことは後で読みなおせるのでとても良い勉強である。その文を母国語の人になおしてもらおうと完璧である。ちなみにその友人が日記を外国語でつける理由は、言葉の勉強と云う一つ、誰かに読まれても内容がわからないからさうだ。友人はけっこう、おちゃめであった…。

今彼女は語学勉強の楽しみを見つけた段階にすぎない。勉強は続けてこそそのびるものであり、決して短時間で得られるものではない。おわかれのプレゼントに贈られた日記帳を見つ、友人のまねをして外国語で日記でもつけてみようかと思う毎日である。

僕流学問のススメ



経済学部4年 堀田能州

ある日、僕が学生係に証明書を取りに行った時、学園ニュースの原稿の依頼を受け、考えているうちに書くはめになったので、今こうして書いている訳だが、僕は昔からどうも作文というものが苦手で、中学生の時「うらしま太郎を読んで」という素晴らしく幼稚な感想文を書いたくらいだから、相当な作文の腕前だということを知っていただけだろう。

余談はさておき、僕が昨年1年間カナダに滞在して、語学習得について感じたことを簡単に書いてみたいと思う。まず、習得にあたっては英語学校に入るのがてっとりばやい。僕自身7か月程学校に通って感じたのは、自分の目的にあった学校を選ぶことが重要ということだ。ここで長々と解説する気はなく、学校に関しては、本屋などに行けば腐るほど留学の本や、語学研修の本があるので、それらを参考にすればよいと思う。

そこで僕は学校以外での語学修得について書くことにする。語学を修得するにあたって、その現地に入って暮すということは大変なプラスになると思う。そこに住んで、住んでいる人と同じ事をするのだ。例えば、ある日、上半身裸になって気持ちよく公園の芝生の上に僕が寝転がっていると、イタリア訛りのホモおやじに誘われてしまい困ったが、彼と喋ったおかげでスラングが少し解るようになった。また、映画料金が安いので、僕は映

画館によく足をはこび、ヒアリングの練習も兼ねて楽しんだ。カナダに知り合いがないので、アパート探しも自分でしなければならなかった僕は、10件以上もまわって、住む所を決めたので、英語でのかけひきには自信がついた。このように、生活することによって、学校だけでは得られないものを沢山得た。さらに数か月間の旅でも得るものが多かった。特に僕は貧乏だったので、あらゆる面で節約を強いられ、悲惨な目や、ひもじい目に数知れずあったが、良いことも沢山あった。例えば、交通費を節約するため、ヒッチハイクをした時は、炎天下に何時間も車が止まってくれるのを待ち続けたこともあったが、何十人もの人達と出会い、素晴らしい会話の時間をもてた。また、料金の安いユースホステルに泊り、多くの旅人と話すことが出来た。市内でもバスを使わず、よく道に迷って何時間も歩き続けたこともあったが、その都度、地元の人達に助けってもらった。しかし、中には違った道を教える老婆なんかもいて、用心するにこしたことはないという教訓になった。

とにかく、学校外で得ることは多い。生活することを楽しむことは、語学修得にもつながるし、また、あらゆる面でプラスになると思う。だから、頭でっかちではなく、楽しんで語学を学ぶというのが僕流の学問のススメである。

使ってみることが大事

理学部地球科学科4年 三井康孝

ぼくが幼かった頃、「海の向こうにも人が暮らしている」ということが信じられなかったのです。地球儀を見れば、ここが日本で太平洋のはるか彼方にアメリカ合衆国があり、日本の裏側にはブラジルがあることがわかりますよね。それでもその頃のぼくは信じられなかったのです。いつかは外国に行って小さい頃からの疑問を確かめてみたいと思っていたのですが、それが実現したのは高校3年のときでありました。

交換留学生として外国の家庭にホームステイし、相互の文化の交流をはかるという目的の留学であったので、語学研修といった感じではありませんでした。日本に帰国してから友人に「アメリカはどうだった？」と聞かれる度に、ぼくはすぐに返事をするのをためらってしまいます。簡単に言い表せないくらいにたくさんの経験を学んだからです。「英語もペラペラでしょう」なんて言われても困ります。たしかに英語を話すことはうまくな

りましたが、アメリカへの留学がそれだけで終わってしまうのが嫌なのです。ずいぶん前の話になりますが、昔を思い出してみようと思います。

ぼくは約1年間、アメリカ合衆国ワシントン州のシアトルに留学していました。自然が豊かで、エメラルドグリーン・シティーと呼ばれているとても美しいところです。着いたいきなり初日からホームステイが始まりました。よく日本人が英会話を「ペラペラ」と表現しますが、実際にそんなふうには聞こえませんでした。ほとんど英語が話せなかったので、心の中では「話かけないでくれー」とばかり願っていたような気がします。最初の頃は、自分が呼ばれていた名前（ヤス）とYESの区別がつかなかったくらいで、恥をかくようなこともありました。ほかにもたくさんの恥や間違いを経験しながら英語を覚えてきました。なんとなく話せるようになったのは4ヵ月たったころだったと思います。話せるようになるまでの



ホスト・マザーとシアトルのモノレールにて

4ヵ月、語学スクールのようなところに通って
いました。鏡に向かって自分の口元を見ながら発音
練習のようなこともやりました。当時は全然気付
いていなかったのですが、習ったことをすぐに使っ
てみる場があったから、語学の習得ができたと思
われます。いちばんの話相手はホームステイして
いた家庭の子供たちとです。今思うと、ぼくのよ
い英語の先生はその子供たちだったような気がし
ます。5ヵ月目からは高校に通い、同世代の友人
といろんな話をし、また一緒に遊んだりの毎日で、
あっという間に過ぎてしまいました。

1年間という長い時間をかけてゆっくり覚えて
いった英語ですが、使わなくなると急速に忘れて

いってしまうものです。外国でなくては外国語を
学べないというわけではないのですが、大事なこと
は恥をかくことを覚悟してでも話をしてみること
だろうと思います。目や肌の色が違っていてもお
互い人間なのですから、気持ちは通じ合うでしょ
う。

写真は昨年夏にシアトルへ行ってきた時のもの
です。

第二の故郷へ5年ぶりに戻ったようなものですが、
向こうの家族の人も、街の様子も変わらず、たい
へんうれしかったです。まだまだ英語を忘れてい
ませんでした。

私の研究室



明るく楽しい考古学研究室

(人文学部)



人文科学研究科1年 鈴木和子

現在考古学研究室には、宇野先生と前川先生、そして男子17人、女子11人の計28人の学生が所属しています。秋に2年生が入ってくると、40人を越える大所帯となります。研究室では毎年たくさんの分布調査、発掘調査等を行います。考古学では机の上の勉強の他に、フィールドワークが大切な勉強の場です。これらの調査やその後の整理作業を通して、技術を身につけていきます。とにかく覚えなければならないことは、たくさんあります。

富山大学の考古学研究室の特色といえば、中世考古学を勉強できることです。ここ数年は中世遺跡の調査を多く行っており、大きな成果を上げています。またパソコン等による分析を行ったり、理化学的機器を用いて、発掘せず遺跡を分かっけしめようという欲張りな方法を取入れるなど、研究の最先端を行っています。

考古学研究室の1大イベントといえば、何といっても夏の発掘です。(中にはソフトボール大会が1大イベントという人もいるようですが。)これだけの人数が一緒に寝食を共にするので、ハプニングも多々あります。時には先生に叱られることもあります。日に日に黒くなっていく自分をみ

て、「これこそ私の青春だ!」と思ったりもするのです。

みんなが一番まとまるのは、やはりソフトボール大会の時です。男女とも、いつも目指すは優勝です。しかし、基本は楽しむことなので、そのためには何でもしてしまうのが考古学研究室の特色です。そのため「考古学の人達は人種が違うから」という声も聞こえてきたりします。でもそんな事までも誇りと思ってしまう楽天的な雰囲気が、この研究室にはあります。

考古学研究室の学生は仲がいいとよくいわれます。みんな遊ぶのが大好きで、イタズラも大好きなので、研究室はいつも笑いがたえません。研究室には、同じ趣味をもつ人が集った「チーム」とよばれるグループがいくつかあります。その名前は「RT牛乳、ドカジャンズ、H麻雀同好会、FISHERMAN'S SWOOPLEX」等です。またアウト・ドア派が多いので、日曜日にはドライブや魚釣に行ったり、時には屋外で焼肉をしたりもします。みんな勉強もし、仲良く遊び、時にはとんでもないイタズラもし、楽しい充実した大学生活を送っています。

わたしの研究室

— 教育学研究室 —

(教育学部)



教育学部 4年 高倉 修

教育学とは、どんな所か、どんな人たちの集まりか、どんな勉強をするのか、と思われる方がいらっしゃることでしょう。それらの疑問を今、ここで解決することにしましょう。

まず、どんな勉強をするのかという事ですが、私が思うに他の専攻とは違い一番現場において役に立つ実践的な勉強ができる専攻だと思います。私自身、教育学に入り、専門の勉強を始めた当初は何が何だかよく分からないまま講義を受けていたように思います。しかし、3年になり、教育実習に行ってみると「あの時の講義で聞いたことだ。」と感じる場面が多々ありました。こういう場面に出会う度に私は、「教育学で学んでいた事は実際の現場で大いに役立つものなんだ。」と強く感じました。また、私は副専攻として体育を専攻していますが、体研の学生達から比べるとはるかに免許取得のための単位が揃え易いという事も実際にやってみて感じた事です。教育学を専攻する学生の中には、体育と国語、体育と数学というように複数の免許を取得しようと頑張っている者もいます。このように実践的な勉強ができ、更に自分の学びたいものが学べる。これが教育学の大きな魅力の一つであると私は考えています。

次に、どんな人たちが専攻しているのかという事ですが、前にも述べたように学びたいものを学ぶという意欲の強い者、真の教育とは、と考えている者、実際の現場ではどうなのかと考えている

者、と各々考えている事は様々です。こう書くと、教育学は勉強が好きなお固い人間の集まりだと思われるかもしれませんが、そんな事は全くありません。専攻生はネアカで、馬鹿な話が大好きな人間ばかりです。こういう人間ばかりなので、当然、教育学の雰囲気は明るく、専攻生も和気あいあいとしています。

こんな訳ですから、コンパの類いも多く、皆で楽しんでいます。また、教官と学生も大変仲が良く、コンパでの教官参加率もほぼ100%です。コンパでは、教官も学生もその枠を離れ、仲の良い友達同士が飲んでいるように歌い、語り合いです。しかし、コンパに参加される教官も一度、教壇に立たれると、学生を前に熱っぽく講義され、その姿はまさに妥協を許さないといった感じなのです。当然の事ながら学生達は、その熱い弁を熱心に聞き入っています。だからこそ、コンパ等の席では、より親密になりあえるのです。この教官と学生の仲の良さは学部一であると自負しています。

このように述べてきて、幾分か教育学を分かってもらえたかと思います。しかし、教育学の良さを知るにはこれだけでは不十分だと思います。教育学を専攻して初めて分かるものであり、ここで述べた幾倍の良さ、魅力を知ることができるのです。

わがゼミ仲間 (経済学部)



鯉澤ゼミ4年生 佐野信義

私の所属するゼミナール、鯉澤ゼミナールは、現在、4年生ばかり5人の学生が在籍している。

もっとも、4年生ばかりというのは適切な表現ではない。正確には4年生しかいないのである。特に3年生に嫌われて、今年度ゼミに学生が入って来なかったというわけではない。その理由は、鯉澤先生が今年度をもって退官される予定なので、3年生のために特にゼミを開講しなかったからである。従って、我々現在のゼミ生は、鯉澤先生にとっては富山大学における最後のゼミ生になる。このため、記念すべき最後のゼミ生となる我々は、先生から「今年は例年以上に厳しく仕込む」という有難いお言葉をいただいた。果して、我々ほどのくらいこの御要望にお答えすることができるのであろうか。

さて、私自身が鯉澤先生を知り、そして先生のゼミに入ることになったのは、私が2年の後期にミクロ経済学の講義を授講した時であった。先生のとて解りやすく、非常に熱心な講義の様子をまのあたりにして、この先生のゼミならば、さぞ意義深いゼミ活動ができるだろうと思ったのである。また、私個人としてやってみたい事とゼミの内容が一致したため、特に先生にお伺いしてゼミ

に入れていただいた次第である。

先程述べたように、現在ゼミ生は4年生のみの5人で構成されている。私を除く他の4人はそれぞれ一癖も二癖もある変わり者ばかりである。初めてゼミが行われた時から、そんな感じ持っていたのを憶えている。こんな彼等がその本領を發揮するのはゼミの時で、彼らは発表者のほんの些細なミスに付け入って鋭い突っ込みをしてくるのである。このような彼らの理不尽な攻撃から身を守るために、私が発表者の時は、ゼミの前に“つまらない事で突っ込まないで呉れ”と彼らにお願いすることになる。もっとも、これを裏返して考えれば、それだけゼミの議論が活発な訳だから、つまらない突っ込みさえなければ非常に良い事ではないかと思う。我々がゼミにおいてやっている事を一言いえば、経済原論である。基本的には、鯉澤先生の書かれた本を参考にして、発表者がテーマについて調べ、ゼミの時間に発表するという形をとっている。最後に一言、私がゼミ活動を通して得たものは少なくないと思う。ゼミにおいて学んだ自由経済機構のミクロ的、マクロ的なモデル分析は、今後、私の社会観や生活信条の大きな糧になると思っている。

物性野郎の世界へようこそ

(理 学 部)

ただいま熱電能測定中!!



櫻井研究室 下 田 慎 吾

うーむ、まいったな。「学生による研究室のPR」なんていう原稿依頼が来てしまった。何かインパクトのある話題はないかな。ここは最近カプチーノを一発で廃車にしてみせた若林（仮名）にでも相談してみるか。

私「かくかくしかじかなんだけど、どんなこと書いたらいいかな？」

若「うーん、うちの研究室は固体物性を研究しています。日夜、実験に励んでいますってとこかな。」

私「それじゃあ、PRにならないよ。」

若「『金属の磁性や電気抵抗、比熱や熱電能について研究しています。物性について幅広く研究するチャンスがあります。』とでもしておけば。」

私「さすが。共同研究のこともPRしておこうか？」

若「そうだな。うちは元教養部や教育学部、県立大とも共同研究してるから機材にもスタッフにも恵まれているからな。」

私「低温液化室や水素研で実験することも多いから、みんな登校しているくせに自分達の部屋には誰もいないなんてこともよくあるくらいだもんな。考えてみたら贅沢な環境だよな。」

若「誰もいないからみんな実験してるのかと思ったら、実はソフトボールやサッカーをやっていたなんて事もあるけどね。」

私「あるある。最近は暇を見つけてはテニスコートに集合、だもんな。」

若「なんてったってボスのS井先生からして

『やろうやろう！』って皆を連れて行くからな。そして、『若い人はすぐに上手になりますよ。』とかニコニコしながら初心者にも情け容赦無く打ち込んでコートを走り回ってるぞ。」

私「全くあの元気さにはあきれれるよ。ケガでもしなけりゃいいんだけど。」

若「K井先生も新しくラケットを買ってやる気充分みたいだしなあ。」

私「富山にも慣れて腹が出てきたのもきっかけになったんじゃないの？」

若「そりゃ単に満々軒の通いすぎだろう。」

私「だいたい、うちの先生方は普段からしてパワフルだよな。」

若「I川先生なんかゼミのときにはいつも笑顔で登場して『皆さーん、ちゃんと勉強がんばってますかあ。鼻血が出るまでやらなきゃだめですよお！』だもんな。」

私「この前なんか『どうも皆さん元気すぎますねえ。体重計買ってきて体重の減らない人は罰金取るようにしましょうか！』なんて言ってたぞ。」

若「うーむ、恐るべきパワーだな。」

私「学生の方も空手家A野・U田といい、体も態度もでかいO國・K森といいパワフルなのが揃っているよな。」

若「物理科のソフトボール大会の時には、うちは乱闘で勝負するという話だぞ。」

私「・・・・。まあ、『実験系は最後には体力で勝負!!』という事だな。」

われわれの研究室

電子情報工学科電気システムⅢ講座
(工学部)

大学院1年 木戸利明
学部4年 棚橋徳彦

われわれの研究室を学外の人が初めて訪れ、八木教授と名刺を交換すると、「先生、これはコオロギですか」と教授の名刺の片隅に目をやり、「そういえば先生、コオロギの鳴き声も聞こえますね」と聞き耳を立てる。教授の名刺の隅にはコオロギの絵が描いてあり、研究室では、夏でも、冬でも、一年中コオロギを飼育しているからである。

電子情報工学科にコオロギというと、「なぜ」という声も聞こえそうであるが、われわれの研究室の研究内容は生体工学が中心であり、動物実験も行っているから、実験材料としてコオロギなどが必要なのである。ラットと呼ばれる白ネズミも使っている。これらの動物を用いて、神経系における情報伝達様式の研究などを行っているのである。神経系における信号は電気信号であり、電子回路と同じように、増幅、発振、変調、復調などが行われていることをご存知だろうか。

他の研究を二つほど紹介しよう。①人間が閉眼し、リラックス状態にある時、脳波上にアルファ波と呼ばれる8～13Hzの波が現れる。このアルファ波の発現頻度が呼吸によって制御できること

を見だし、これを利用して、リラックス状態を積極的に作りだそうという、「The Zen」と呼ぶ、バイオフィードバック装置を開発している。②超音波を発射し、障害物からの反射波を測定すると、障害物までの距離がわかる。視覚障害者がもつ白い杖に超音波の目をつけてみれば、という発想の研究もある。これは現在、実用化中である。

ところで、われわれの研究室には、「研究成果は、ビールの量に比例する」という、決して疑ってはならない法則がある。これを、「八木の絶対法則」という。だから、折々に開かれる大宴会や小宴会は研究室の重要事であり、せせとビールの消費量を増やすことになる。この法則の正しさは、この絶対法則を守った八木教授の教え子の中から、国内外ですでに教授が二人、助教授・講師が9人もでていることから明らかであろう。

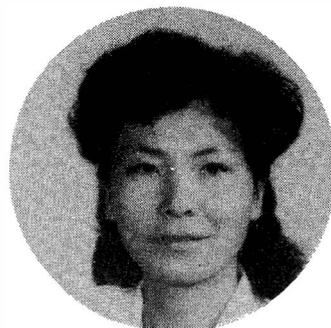
まあ、われわれの研究室を端的に言ってみれば、研究においては研究の楽しさと、研究者、技術者としての心得を、研究室の生活では（大学院生が多いので）縦社会のきびしさを、そして先生方との宴会では上司(?)との付き合い方を教えてくれる、そんな研究室である。

第45回北陸地区国立大学体育大会団体成績表

種 目		優 勝 杯	1位	2位	3位	4位	5位	6位	
男	陸上競技	金沢大学学長杯	金沢	富山	福井	富医	福医		
	野球	富山大学学長杯	金沢	福井	富山				
	庭球	富山県体育協会長杯	金沢	福医	富医	富山	福井		
	ソフトテニス	石川県知事杯	金沢	富医	福井	富山	福医		
	卓球	金沢市長杯	金沢	富山	福井	富医	福医		
	バドミントン	福井市長杯	金沢	富山	福井	福医	富医		
	バレーボール	福井県知事杯	富山	金沢	福井・富医	福医			
	サッカー	石川県知事杯	福井	富医	金沢・富山	富医・高短			
	ラグビー・フットボール	富山県知事杯	金沢	富山	福医	福井	富医		
	剣道	福井県議会議長杯	金沢A	富山A	金沢B	富医			
	柔道	富山県議会議長杯	金沢	福井	富山	福医	富医		
	バスケットボール	福井大学学長杯	金沢	富山	福井・福医	富医・高短			
	水泳	福井大学学生部長杯 金沢市議会議長杯	金沢	富山	福井	富医	福医		
	ヨット	石川県議会議長杯	金沢	富山	福井	富医			
	子	準硬式野球	福井大学父兄後援会杯	雨天中止					
ハンドボール		金沢大学学長杯	金沢	富山	富医	福医	福井		
空手道		福井市長杯	富山	富医	福医	金沢			
弓道		富山大学学長杯	金沢	富山	福井	富医	福医		
体操		福井市議会議長杯	金沢	富医					
自動車		金沢大学学長杯	富山	金沢	福井				
アメリカン・フットボール			金沢	富山	福井				
女		陸上競技	富山県体育協会長杯	金沢	富山	富医	福井	福医	
		庭球	石川県議会議長杯	富医	富山	金沢	福医	福井	
		ソフトテニス	福井県体育協会長杯	富山	金沢	富医			
	卓球	石川県体育協会長杯	金沢	富山	福井	富医			
	バドミントン	福井県教育委員会杯	金沢	富山	福井	富医	福医		
	バレーボール	富山大学後援会長杯	金沢	福井	富山・富医	高短			
	剣道	福井県議会議長杯	金沢	富山	福井	富医			
	バスケットボール	富山市議会議長杯	金沢	富山	富医・福井	富医・高短			
	水泳	福井大学学長杯	金沢	富山	富医	福井	高短	富医	
弓道	小杉スポーツ杯	金沢	富山	福井	福医	富医			

雑 感

勉学の道



理学研究科 化学 シマ 敏

日本に来て、もうそろそろ2年になります。学業の方ではいろいろなことを勉強させてもらっていますし、日本の文化、習慣と生活なども少しずつ理解や体験できて、自分の人生に大きなプラスとなっています。

日本へ来る前は中国北京公安大学文理基礎部化学研究室の講師でした。富山大学理学部分析化学研究室へ来て、後藤先生、田口先生のご指導のもと、「水中超微量の鉄の定量」というテーマで研究しております。この研究について、参考資料と論文などを读んだり、良い実験条件を選んだりするうちに、大変興味がわいてきました。特に、考えた方法を応用してみて、良い結果が得られた時はとてもうれしかった。近く先生方と一緒に研究の成果を学会で発表の予定であります。これらの実験を行なう過程で、先生方から親切なご指導をいただいて、感謝しております。

私の人生で2回の得難い勉強の機会がありました。1回目は中国の文化大革命が終った時でした。文革中は大学入試制度が崩壊し、大学へ入ることが出来なかったため、中学で2年間仕事をしました。入学制度が復活したとき、是非大学で勉強したいと思い、仕事をしながら懸命に勉強し、多くの競争相手中、幸いにより成績で北京師範大学化学科に入ることができました。この貴重な大学時代、私は一生懸命勉強しました。卒業後は北京公安大学に勤めました。しかし、授業を教えるうちに、自分の知識の乏しさを痛感し、研究する機会もありませんでしたので、私は国際的にも先進科学技術について、もっと専門レベルを高めたいたいと思いました。友人と先生の援助のもと、一昨年

7月富山大学に入り、第2の貴重な勉強の機会を得ることができました。本当に第2の学生時代が来ました。

今の研究を続けるために、更に、自分の専門分野の知識を増やすために、今年4月から大学院生になり、新しいスタート・ラインに立ちました。環境問題を解決するためには、まず、環境中の微量有害成分の濃度を精度よく測定することが必要になります。それで、「水中の超微量有害成分の分析法の開発」というテーマで研究を続けることになり、もっと努力しなければならないと思っています。

ところで、あることに深く心を打たれました。それは地元の人々は日中友好を望んでおり、ある人は中国語の勉強をして頑張っています。その中に、40才以上の人が多く、彼らは彼ら自身が少し年をとっているため、若い人と一緒に勉強するのは容易ではないと思っています。私は、40過ぎた日本人が中国語を勉強しているのを見て、私も若い日本の学生と共に頑張らないといけなと思いました。

しかし、留学してからの道は決して平垣ではありませんでした。しばしば起こる言葉の障害や、生活上さまざまな困難にぶつかります。このような時、先生方や、研究室の皆さんや、友達にいろいろお世話になり、心から感謝しています。

中国の成語に「学問はとどまる所がない」というのがあります。勉学の道を通れば、必ず知識と知恵が得られ、能力を高めるはずで。私はこの道を歩いて行きたいと思っています。

留学生指導相談室の組織及び業務

本年1月、学内措置により留学生指導相談室が設けられ、4月より業務を始めております。

相談室の業務は、留学生指導相談室の委員等の努力と富山市内のボランティア団体の協力により順次拡充を図っており、留学生・日本人学生にとっても大いに利用できるような体制づくりをすすめています。

☆組織 (図1)

☆業務

《既に実施している主な業務》

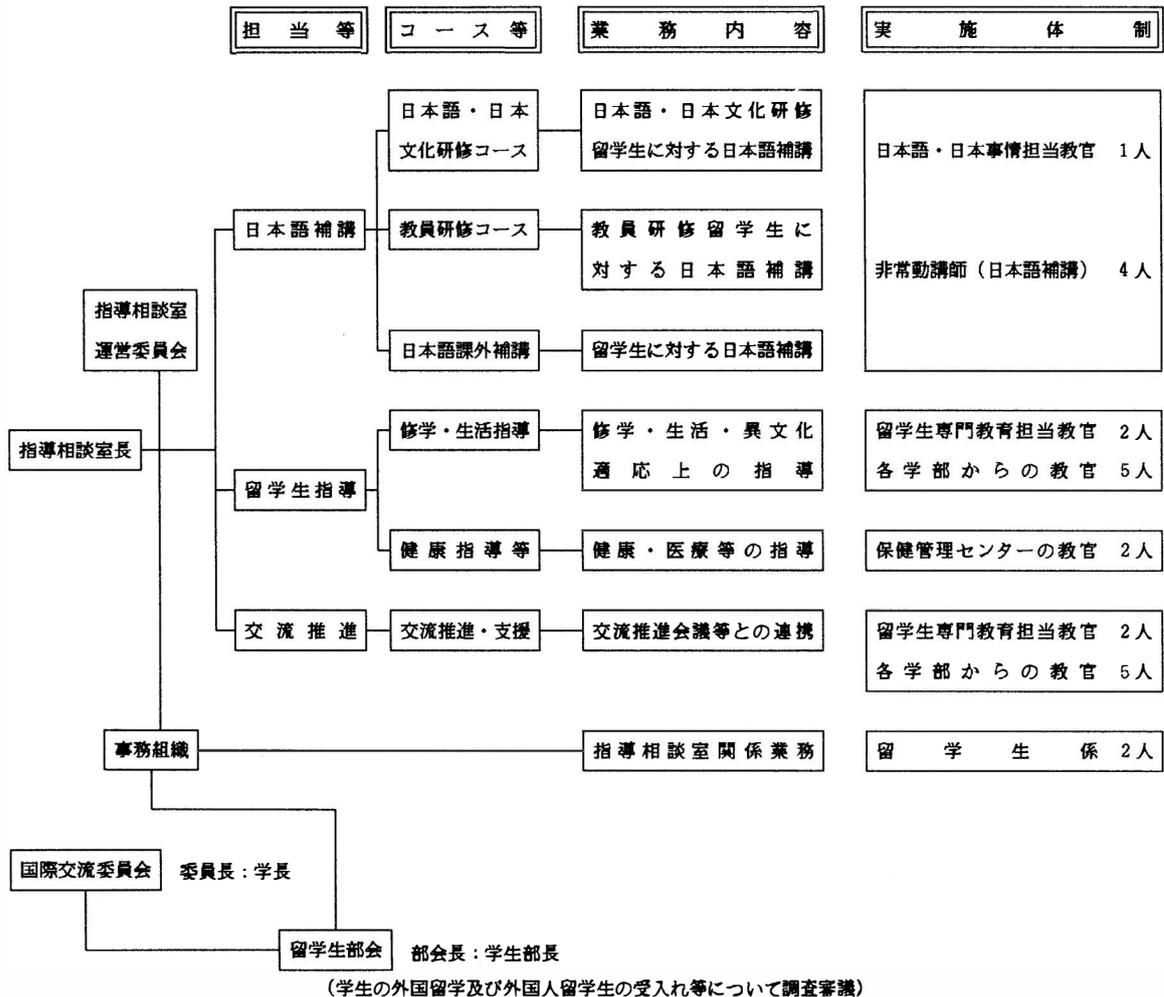
1. 日本語補講 (表1)
2. 留学生に対する各団体からの行事案内参加申込み等の取りまとめ

3. ボランティア団体との連携による生活用品の斡旋
4. ホームステイの登録等
5. 各種資料等の収集・提供

《これから実施の主な業務》

1. 生活・修学及び異文化適応上に関する相談業務
2. 各種資料等の収集及び提供
 - ① 異文化適応に関する資料
 - ② 海外留学等に関する資料
3. 留学生リレートーク
4. 留学生民間宿泊保証人支援事業

図1. 指導相談室の組織



留学生コーナー

表1. 日本語補講

コース名		内 容
A	コース	対象：日本語能力がほとんどゼロに近い人 目標：初歩的な語彙・文法を用いて簡単な日常会話ができるようにする。 日本語の正しい発音が理解できるようにする。
B	コース	対象：初歩的な文法・語彙の運用能力がある人 目標：基本的な文法・語彙を習得し、日常生活に役立つ会話ができるようにする。 既習語彙・表現をもとにした文章を読み、内容把握ができるようにし、比較的まとまった内容の文章を構成できるようにする。
C	コース	対象：初級の文法・語彙の運用能力がある人 目標：初級の文法を定着させ、会話運用能力を高める。読み物を通して読解力をつける。テレビやラジオのニュースに使われている用語や言い回しに慣れる。 文章を論理的に書く力を養う。
D	コース	対象：中級程度の文法・語彙の運用能力がある人 目標：高度の文法・語彙を習得し、社会生活をする上で想定される場面、話題に適した日本語運用能力をつける。また、大学等で学習・研究を進めていくための基礎となる日本語能力をつける。
作文コース	Aレベル	対象：ひらがな・カタカナの読み書きができて、初級前半の文法を習得している人 目標：基本的な文型の練習・短文の積み重ねを通じて、日本語による文章表現に慣れる。
	Bレベル	対象：中級程度の文法を有し、漢字500字程度を習得している人 目標：自分の意見や感想を日本語の文章によって表現できるようにする。
漢字コース	Aレベル	対象：ひらがな・カタカナの読み書きができて、初級前半の文法を習得している人 目標：基本的な漢字について、正しい筆順、正しい送り仮名の付け方に従って書くことができ、正しく読むことができるようにする。
	Bレベル	対象：基本的な300～500字程度の漢字及び初級の文法事項を習得している人 目標：日本生活で目にする漢字かな交じり文の中の漢字や熟語を正しく読み、意味をとらえ、また、類推できるようにする。
	Cレベル	対象：1000字以上の漢字及び初級の文法事項を習得している人 目標：日本語の新聞・雑誌を理解できる程度の漢字力を養う。

トピックス

日本塑性加工学会賞 (会田技術賞) を受賞して

工学部教授 時 澤 貢

このたび図らずも日本塑性加工学会より会田技術賞を受賞いたしましたことは、全く身に余る光栄であります。受賞の対象となりましたのは、20数年にわたって研究してきました「アルミニウム合金の熱間押し出し加工技術に関する総合的研究」の成果に対してであります。研究の内容を具体的に言えば、寸法精度が良く、強く美しい品質の良い安定な押し出し製品を製造するための総合的研究と言うことになります。

ご承知のように、アルミニウムは比重が約2.7で鉄や銅の約3分の1の軽さであり、しかも、強く、錆にくく、加工しやすい…など、現代が求める特性を持った金属であります。このような特性を生かして、押し出し製品は、建築、自動車、鉄道車両、航空機、船舶、橋梁などの構造用部材から、最近では、複写機の感光ドラム、アート用額縁、自転車のリムなど美観が重要視される製品まで、多岐にわたって利用されています。押し出し加工とは、トコロテンを押し出すのと同じように、鋼製の外枠(コンテナ)の中に円柱のアルミニウム合金鑄塊(ピレット)を入れて、一方から強い圧力を加え、他端では製品と同じ断面形状のダイス穴を通して型材を製造する加工法であるので、外部から全く内部の加工プロセスを観察することができません。本研究の着眼点は、まさにこの加工プロセスを可視化することであり、幾多の試行錯誤を種々重ねた結果、分割ダイス方式を考案するに至りました。この分割ダイスを用いて、押し出し中の材料流動と型形状との相関を可視化で解析することが可能となり、その結果、型材の寸法精度を高めるための最適型設計、型材の表面の美麗化に

は型面と押し出し中の材料表面とのトライボロジー、型材の高強度化にはピレット組成の改良と型設計など、総じて押し出し製品の品質の安定化と向上に寄与できるように研究を進めてきました。これらの研究は、学会論文31編、シンポジウム講演3回、著書5編、国際会議発表2回、技術者・研究者との懇談会50数回などに集約され、多くの方々との研究情報の交換や出会いによる賜物と深く感謝している次第であります。

最近、大学における教育改革が叫ばれ、我々大学人には、豊かな独創性と自主的な研究・開発能力を有する人材の養成の点から、研究者と教育者の両面が要求されています。研究しつつ学生に教授するという表裏一体が求められ、学生に対する教授法や研究指導法をどうするかと言った努力が必要となっています。幸いなことに、私の研究室にはモノ作りの好きな学生が集まり、定められたテーマに対して大学院生を中心に切磋琢磨しながら研究に励んでおります。これまでに多くの卒業生が、研究室配属によって始めて「考える」トレーニングを受け、モノ作りの実践と、実証によって卒業時には実力が飛躍的に向上し、技術者、研究者の卵として立派に学窓を巣立っていく様子を見るにつけ、20代前半のこの時期における大学人の役割の大切さを改めて実感している次第です。今回の受賞にあたって、研究設備の不足や安全教育の周知徹底など、いろいろと反省させられる点多々あり、最適な教育・研究の環境づくりこそが今後の大学の活性化に向けての我々大学人が与えられた使命であると認識している次第です。

日本にも原人がいた！？

—地磁気の化石を使って

地層の年代を調べる—

理学部地球科学教室 広岡 公夫

最近、宮城県築館町の高森遺跡では約30万年前頃ではないかと推定される火砕流堆積物（下山里火砕流と名付けられている）の更に8 m下の地層から石器が発見された。高森遺跡では、一昨年、昨年と2年続けて卒論の研究として、古地磁気測定を行い、古地磁気層序の確立を目指してきた。その結果、石器が発見された地層は、どうも50万年前くらいの年代であるらしいという結論を得たのである。50万年前といえば原人の時代である。もし、この結論が正しければ、日本にも原人がいたことになる。高森遺跡周辺の火山灰層の調査結果でも、石器出土層準は50万年前頃の地層と考えて問題はなく、原人の時代であることはほぼ間違いない。

地層に残された地磁気の記録を調べて年代を推定する方法がある。地層中には砂鉄のような磁石になることができる粒子（磁性粒子）が数%含まれており、これらが、堆積時に、その磁化をその時の地球磁場の方向に向けるように配列して堆積するために、堆積物全体が磁化をもち、しかも、それが堆積時の地磁気の記録となっている。このような磁化を堆積残留磁化といい、これによって過去の地磁気の方向を知ることができる。残留磁化はいわば地磁気の化石である。

地磁気には、過去に何度も、N極とS極が入れ替わる逆転が起こったことが明らかになっている。一旦、地磁気が逆転すると、その極性が、その後、百万年程度持続するが、その期間中に10年以下しか続かないような短い逆転期が含まれる。これをイベントといい、73万年前に地磁気が逆転してからも、短期間の逆転が何回かあったことが報告されている。その中で、30万年より古いものを探

すと、38万年前のピワⅢ・イベント（琵琶湖底堆積物から見つけれられた）、46万年前頃のエンペラー・イベント、56万年前頃、63万年前頃のものがあ

る。高森遺跡では、約8 mの厚さの地層が露出している。最下部の湖成層と、最上部の下山里火砕流の間に17枚の火山灰層がはさまれている。最下位を高森第1火山灰層（Tm1）、最上位のものを高森第17火山灰層（Tm17）と名付けている。石器はTm1の少し下の地層から見つかっている。試料の採集は、上から下まで79層準で行い、測定したところ、Tm1、Tm7、Tm10、Tm15の4箇所の火山灰層のところで、逆転磁化が見つかった。

今回の高森遺跡の4つの逆転が上記の4つに当たるかも知れないが、そうすると石器がでた地層は65万年前頃のものとなり、少し古すぎるきらいがある。また、高森遺跡の地層のはっきりした年代測定の結果が出ていないので、これらの逆転の年代を決めることはできないが、仮に、最下位の地層を少し内輪に見積って50万年とし、最上位を30万年、堆積速度が一定であったと仮定して、強引に年代を当てはめると、逆転は下位から、46万年、42万年、41万年、37万年前のものとなる。もし、これが正しいとすると、Tm1（46万年前）はエンペラー・イベントに、Tm15（37万年前）はピワⅢ・イベントに相当するのかも知れない。いずれにしても、50万年前頃あるいはもう少し古い時代に日本に石器を作った人が住んでいたことは間違いない。アジア大陸に北京原人が住んでいたのなら、何度も大陸と陸続きになった日本列島に原人が渡って来て、高森原人が宮城県に住んでいたとしても少しもおかしくはない。

とやま賞受賞について



工学部化学生物工学科 松郷 誠 一

私は昨年、生まれ故郷の富山に約20年ぶりに戻ってまいりましたが、戻って早々、栄誉ある第10回とやま賞を他の立派な先生方と同時に受賞できたことを誠に光栄に思っています。この賞は45歳までという年齢制限があるので、若手研究者として認められたことになり、喜びもひとしおのものでした。また、研究分野である生物有機化学が富山の地で評価されたことを大切に考えていきたいと思っております。

現在、私は活性酸素に関する化学及びその生物化学に関するサイエンスに興味を抱いて研究を進めております。我々は、酸素を吸い、二酸化炭素を吐いて呼吸している訳ですが、吸った酸素分子は生体内でそのままの状態で存在している訳ではなく、短寿命ながら反応性に富んだ活性種に変化し、これらが種々の生体の恒常性を維持するための酸化反応に関わっているわけです。これらの活性種を総称して活性酸素といいます。ところが、活性酸素は非常に反応性が高いために、時に多く発生しすぎた場合などには生体に損傷を与えることがあります。その結果、生体膜の酸化、蛋白質の酸化的損傷、核酸の損傷などが起こってきます。これらの現象は生命活動の維持に不利な要因になってきます。そうして、こうした諸現象の積み重ねが老化、疾病、あるいは癌化と密接に関わっていると考えられています。こうした現象の謎を何とか分子レベルで解明できないか？、その方策はないか？ということを考え、活性酸素を一定量発生できる分子プローブを開発することを考えました。この際に反応を量的に制御するため、長波長の光

照射により活性酸素を発生する分子の設計を行いました。この方法により反応が外部から制御可能となり、反応の初期課程を詳細にみきわめることが可能になった訳です。この分子を用い、まず核酸の酸化的損傷を検討しました所、核酸を位置特異的に認識してそこで切断を起こすことがわかりました。核酸の切断は遺伝子の欠失や転座を引き起こすものであり、生体にとりきわめてゆゆしい損傷です。それと同時にこの分子による核酸の酸化的修飾を調べました。点突然変異を誘発する化合物の生成を調べました所、効率よく生成していることが判明しました。点突然変異は癌化に連なるものであり、このプロセスの解明は現在の癌研究の重要な話題の一つです。この生成の分子量論的關係を明らかにしたことと同時に切断と修飾の關係を解明できました。これらの研究は生体内プロセスを考える一助になるものと確信致しております。

現在、これらの研究を基に細胞レベルで詳細に調べておりますと同時に他の生体分子の酸化的修飾を検討しています。

21世紀の足音がきこえてきそうな1990年代になりました。科学の分野でも多くのビッグサイエンスが21世紀に花ひらきそうです。富山の地がそうした拠点の一つになるよう若い富大生諸君と研鑽を深めたいと思っております。

最後になりますが、この賞を受賞するにあたり、公平で良識ある判断を頂いた富山県置県100年記念財団の皆様、並びに共同研究者各位に厚く御礼申し上げます。

特別寄稿

中国の児童教育及び現状

人文学部外国人教師 呉麗艶

中国の「一人っ子」政策は全世界でも特有な国策として、各国から非常に注目を集めている。特に外国にいる中国人は「一人っ子」政策についてよく聞かれるそうである。私もその体験者の一人で、富山大学に来て一年ぐらの間に日本の方がそれについてとても関心を持つことが分かった。そこで、外国人教師として中国子ども教育の現状について簡単に述べたいと思う。

1. 「望子成龍」（子どもが龍になってほしい）という過大な念願

「僕の人生はもうだめだ。しかし、君に期待する。君が出世できるのなら、何でもしてあげよう。」これは「文革」という、十年ほど大学を廃止された時代に青春を過ごした、今40才前後になった父親、母親たちの自分の子どもに対する内心告白の言葉である。あまりに悲劇的なセリフだが、これはすでにこれらの人々の口癖のようになった。自分が正式な教育を受けられなかった苦痛の体験から、どうしても子どもにより多く知識を与え、より早く開花を期待するのは、この世代の最大の念願のようである。そこで、「早期教育」「早期知恵開発」「教育強化」といったようなことに熱心になる。民間には数えきれないほどの塾が設けられ、国でも「重点小学校」「重点中学校」「重点高校」「重点大学」、さらには「重点幼稚園」さえもたくさん設置して、民間から国まで教育に拍

車をかけている。けれどもこの「戦場」といってもいいくらいの競争に押しつけられたのは無論子どもたちにきまっている。しかし、その背後で「司令官」のような役をしている親たちも決して安らかにできず、仕事以外の時間は全部子どもの宿題の補導やら、塾への同行やら、稽古の監督などに潰されてしまう。99%夫婦共働きの中国家庭には親としてのレジャーの時間はほとんどないといっても言い過ぎではないようである。

2. 「龍」になれるか、「虫」になるか、幼い心が震える

「朝6時に起床、7時に登校、8時から午後4時まで授業、5時まで学校で宿題、夕食が済んだあと7時からピアノの稽古、10時に就寝。」これが私の娘を含む、ほとんどの子どもの毎日のスケジュールのようである。無論ピアノに限らないが、とにかく必ず何かをやらせる。そのため中国にはいろいろブームが相次いでいる。学校の休みの日でも、日曜日でも、子どもはどんどん忙しくなる。稽古をいっぱいやらせるからである。私の隣の家では男の子に日曜日でも6、7時間の練習をやらせるそうだ。私もそのような厳しい親の一人である。娘が3才半の時から無理やりピアノの練習をやらせ、あまりにもやる気がなかったため、時には説得したり、時には脅かしたり殴ったりもした。娘と一緒に泣いたりしたこともたびたびある。2

年後、娘は「神経的な負担をあまりかけられたため、胃が少し悪くなってきたようだ」と医者に言われ、とうとうピアノの練習を止めた。今の私はとても後悔しているが、しかし、私と同じような親は中国にはまだ多くいるようだ。昨年来、人民日報のシリーズで三十数回にわたって、中国武漢、瀋陽で発生した一連の親が肉親を殺した事件を載せ、国内ではもちろん海外でも大変注目を集めた。3才の男の子が唐詩の一句が暗誦できなかつたため父親に蹴飛ばされ、頭が箆の角にぶつかって死ぬという悲惨な事件があった。また、11才の男の小学生が登校を拒否したため父親に殴られて死ぬというひどい事件もあった。なぜ父親は自分の肉親のたった一人の子どもを殴り殺すのか？三宝政美先生が「北日本新聞」で指摘されたように「いずれも犯行は親が子どもの将来に期待するあまりに行われた暴力行為であった」。そのような不幸な事件がおこった社会的背景を探ってみよう。

3. まだ根強い「体罰教育」

中国は5000年の歴史を持つ悠久の文明国家である。「孟母三遷の教え、孟母断機(つみぎ)の教え」で知られる孟子の母のような優秀な親を輩出した。しかし、長い封建的な歴史から、家長制や子を私有財産とする概念が現在まで根強く残っており、「自分の子は自分の意志によって育てる」という思想は現代人にまで及んでいる。そこで、家庭には民主的な風が吹き込まず、親の意志は絶対的な権威で、「他の子がピアノを習うのなら、我が子にもピアノを習わせよう」というような全く自分の子どもの素質や天賦、また愛好、趣味を無視して、強制的にやらせる親が随分いるようである。いったん自分の「独尊」を損なわれたら、怒ったり怒鳴ったり、殴ったりする親は少なくない。それらの親たちはさきに述べたように自分自身の知識水準が低いため、よりよい教育方法を身につけておらず、「体罰教育」に頼ってしまう。ある小学校の調査では多数の子どもが親に殴られた経験があるようだ。それに対して中国政府は「未成年保護法」を發布して、法律で子どもの人権を固く保護し、民間にも子どもを守る組織が相次いで成立した。それでも、家庭においては「体罰教育」の習慣はまだ残っている。

4. 学校での厳しい競争

「書中自有黄金屋」(書の中に金の家がある。つまり、よく勉強すれば金持ちになれる)という格言は古い封建時代から現代人まで影響を及ぼしている。特に「全面経済改革」のもとで「立身出世」するためには学歴が何よりだと人々は常識としてこれを認識しているようだ。またその「改革路線」に応じて、学校は人材を育てる搖籃として、人材をより早く育成するために知恵を絞って、いろいろの方法や手段を考えている。例えば半学期のうち中間試験、学期末試験のほかに数え切れない小試験があり、その成績の点数によって順序を決め、壁に張る。生徒だけでなく、その親にも見せるわけである。無論、それは生徒たちのライバル意識を刺激するには良い面があるかも知れないが、逆に暗い面がないわけではない。またさらに同じ学年の各クラスの平均成績によっても順序を作り、点数を比べるため、教師の間でも競争がとても激しいそうである。いずれも高点数を求めするために教師、親、子ども三位一体で全力を尽くしている。しかし激しい競争をさせられた子どもの心身がどれほど疲れるか、言うまでもないだろう。あまりにも負担の重い子どもを解放するために「家庭での宿題を減らそう」「子どもを遊ばせよう」と多くの教師や親たちの掛声が高くなってきた。国でも民間でも子どもの権利をまもる組織がつつぎと誕生している。子どもの童話のような世界がまもなくやって来るだろう。



学生部だより

就職状況

来春卒業予定の学生の皆さん、昨今の経済事情の影響により、大手企業の4割が採用減、企業の6割が何らかの雇用調整を実施するなど、就職を取り巻く状況は厳しくなっております。

企業等では、「成績よりも人間性や可能性を優先」とした採用選考の姿勢を打ち出し、求人活動を進めると伝えられています。

このような厳しい就職戦線に当たり、運が悪いと考えるのではなく、むしろ自分を鍛える絶好のチャンスと考え、積極的に就職活動を行い、より良い就職ができるよう期待します。

学内の就職担当係では、迅速な求人情報の提供に努めていますので、就職資料室等の活用や就職担当者に気軽におたずねください。

殊に女子学生の皆さんには、非常に苦しい就職活動が行われていると伝えられています。しかしながら、このような厳しい就職環境の中から採用される皆さんですから、企業は例年の新入職員よりも皆さんへの期待は大きいものと考えられます。

今年度の就職戦線も終盤を迎えましたが、学生の皆さんには粘り強い就職活動を通して、寄り添った就職が行われるよう期待します。

なお、今春卒業者の就職状況について次のとおり案内いたします。

平成4年度卒業生産業別就職状況

平成5年5月1日現在

産業別		学 部						産業別		学 部					
		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計			人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
農・林・漁業	業							不 動 産 業	2		2			4	
	業							運 輸 業	5	4	10		1	20	
建 設 業	業	5	6	16	1	5	33	通 信 業		3	2		4	9	
	業							計	5	7	12		5	29	
製 造 業	食品・たばこ製造業	1	2	10	3		16	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業			5	1	6	12	
	繊維工業		1	4	1	7	13	医 療 保 健 業	1	1				2	
	衣服・その他の繊維製品			2			2	法 務							
	出版・印刷関連産業	15	7	10	1	4	37	宗 教		1		1		2	
	化学工業	4	2	8	26	9	49	非 営 利 的 団 体	2	15	6			23	
	石油製品・石炭製品					6	6	情 報 処 理	17	27	38	31	16	129	
	鉄 鋼 業	1		1	1	2	5	そ の 他 の サ ー ビ ス 業	7	12	20	9	2	50	
	非鉄金属製造業	8		4	3	8	23	計	27	56	64	41	18	206	
	金属製品製造業	2	6	13	1	9	31	教 育	20	70	2	4		96	
	一般機械器具	3	1	11	6	29	50	国 家 事 務	5		15		1	21	
	電気機械器具	3	2	19	14	55	93	地 方 事 務	13	13	32	6	1	65	
	運送用機械器具	1		13		24	38	計	18	13	47	6	2	86	
精密機械器具					1	1	上 記 以 外 の も の					1	1		
その他の製造業	1	4	15	1	1	22	合 計	150	195	360	112	201	1,018		
計	39	25	110	57	155	386									
卸・小売業	卸 売 業	5	7	19		8	39								
	小 売 業	20	7	25	1	1	54								
	計	25	14	44	1	9	93								
金 融 ・ 保 険 業	銀行信託業	4		23	1		28								
	証券業・商品取引業			1	8		9								
	保 險 業	4	2	16			22								
	その他の金融・保険業	1	1	11			13								
	業 計	9	4	58	1		72								

平成4年度卒業生就職状況

平成5年5月1日現在

学部	項目 性 学科・課程	卒業者数		就職希望者数		就職者数		就職未定者数		就職率(%)	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人文学部	人文学部	30	61	26	59	25	52	1	7	96.2	88.1
	語学文学科	14	77	11	73	10	63	1	10	90.9	86.3
	計	44	138	37	132	35	115	2	17	94.6	87.1
教育学部	小学校教員養成課程	29	65	28	61	27	57	1	4	96.4	93.4
	中学校教員養成課程	18	26	18	24	18	23		1	100	95.8
	養護学校教員養成課程		20		19		11		8		57.9
	幼稚園教員養成課程		30		30		27		3		90.0
	情報教育課程	18	18	17	16	17	15		1	100	93.8
	計	65	159	63	150	62	133	1	17	98.4	88.7
経済学部	経済学科	123	32	112	27	112	27			100	100
	経営学科	100	35	91	31	91	31			100	100
	経営法学科	90	19	81	18	81	18			100	100
	計	313	86	284	76	284	76			100	100
理学部	数学科	21	16	17	15	16	15	1		88.2	100
	物理学科	34	2	16	2	16	2			100	100
	化学科	23	20	12	18	11	17	1	1	91.7	94.4
	生物学科	21	14	10	10	10	9		1	100	90.0
	地球科学科	20	2	16		16				100	
	計	119	54	71	45	69	43	2	2	97.2	95.6
工学部	工業工学科	24	13	10	7	10	6		1	100	85.7
	金属工学科	33	1	19	1	19	1			100	100
	機械工学科	58		41		41				100	
	生産機械工学科	37		25		25				100	
	化学工学科	39	1	21	1	21	1			100	100
	電子情報工学科	99	2	59	2	59	2			100	100
	電気工学科	6		5		5				100	
	電子工学科	12		11		11				100	
	計	308	17	191	11	191	10		1	100	90.9
合計	849	454	646	414	641	377	5	37	99.2	91.1	

20才になったら国民年金

学生のみなさんは、国民年金についてご存じでしょうか。

これまで学生については、20才以後在学中に障害者となった場合、国民年金に加入していない限り障害基礎年金が支給されず無年金となっていました。また、基礎年金制度は、原則として、20才から60才までの40年間加入することを前提に満額の老齢基礎年金を支給することとされていますが、学生は、任意加入とされていたため20才以上の在学期間中に、国民年金に加入していなかった者については、卒業後年金制度に加入していても満額の老齢基礎年金が受けられませんでした。

このため、国民年金法が改正され、平成3年4月1日から、20才以上の学生も全て国民年金に当然加入することになりました。



加入手続等は、次のとおりです。

(1) 国民年金の加入手続き

ア. 平成5年4月1日に既に20才以上になっている学生で、まだ、加入手続きをしていない場合

あなたが、現在住民票を登録している市町村の国民年金担当窓口へ行って、手続きをしてください。(学生証と印鑑が必要です。)

イ. 平成5年4月1日以降に20才に達する学生の場合

あなたが、現在住民票を登録している市町村から20才の誕生日に、国民年金加入資格調査の照会ハガキが送付されてきます。

(2) 保険料と保険料の納付

国民年金の保険料は、月額10,500円となっています。保険料は、国民年金の加入手続後に、市町村から送付される国民年金保険料の納入通知書により納めることとなります。

保険料の納付に当たっては、親元と十分連絡をとって、納め忘れのないように気をつけましょう。

(3) 保険料の免除制度

経済的理由で保険料を納めることが困難な場合には、申請すると保険料を免除される制度があります。保険料の免除を希望される方は、市町村の国民年金担当窓口へ問い合わせてください。

授業料免除・徴収猶予のお知らせ

学生の皆さんが、大学において教育を受けたり研究のため施設を使用したりするためには、授業料を納付しなければなりません。

この授業料は毎期（年に2回（4月，10月）ごとに年額の1/2ずつを納付することになっています。しかし次のような事情があるものには、授業料の免除・徴収猶予ができる制度があります。

- イ. 経済的理由により授業料の納付が困難であり、学業優秀と認められる者
- ロ. 授業料の納付前6月（新入生の前期にあつては、入学前1年以内）において、学資負担者が死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる者
- ハ. ロに準ずる場合であつて、学長が相当の事由があると認めた者

次に具体的に減免を出願するに当たって、以下に示す家計基準と学力基準が定められていますので出願者は基準に合致していなければなりません。

① 家計基準

家庭の収入については、おおむね次の範囲内であることが目安となります。

○3人世帯

(父(所得者), 母(無職), 本人(自宅通学))

給与所得者 その他の所得者

	全額免除	半額免除		全額免除	半額免除
A級地	442万円	544万円	A級地	263万円	334万円
B級地	432万円	530万円	B級地	256万円	324万円

○4人世帯

(父(所得者), 母(無職), 本人(自宅通学), 弟(公立高校))

給与所得者 その他の所得者

	全額免除	半額免除		全額免除	半額免除
A級地	502万円	612万円	A級地	305万円	382万円
B級地	492万円	598万円	B級地	298万円	372万円

○5人世帯

(父(所得者), 母(無職), 本人(自宅通学), 弟(公立高校), 弟(中学校))

給与所得者 その他の所得者

	全額免除	半額免除		全額免除	半額免除
A級地	548万円	667万円	A級地	337万円	420万円
B級地	537万円	651万円	B級地	329万円	409万円

所得計算

各世帯の収入は、別表第1，第2に定める収入金額以下の者でなければなりません。具体的には、

収入基準額 ≥ 総収入額 - (必要経費 + 特別控除)

(注) 総所得金額とは、本人の属する世帯の1年間の金銭，物品等の総収入金額をいいます。

別表1 全額免除に係る収入基準額表

区分	所在地域		
	A級地	B級地	
世帯人数	1人	1,090,000円	1,060,000円
	2人	1,740,000	1,680,000
	3人	2,010,000	1,940,000
	4人	2,180,000	2,110,000
	5人	2,360,000	2,280,000
	6人	2,470,000	2,390,000
	7人	2,580,000	2,500,000

別表2 半額免除に係る収入基準額表

区分	所在地域		
	A級地	B級地	
世帯人数	1人	1,480,000円	1,430,000円
	2人	2,350,000	2,270,000
	3人	2,720,000	2,620,000
	4人	2,950,000	2,850,000
	5人	3,190,000	3,080,000
	6人	3,350,000	3,230,000
	7人	3,510,000	3,380,000

※A級地とは、自宅が東京都区内等の指定された都市にある場合、B級地はそれ以外の場合です。

② 学力基準について

学力については、「学力優秀と認められる者」となっており具体的には次に示す標準的な単位数を修得し、かつ評語が一定水準以上であることがもとめられますので日頃から単位の取得や学習に気を付けて勉学に励む必要があります。

学生の区分		標準修得単位数
学部学生	2年次	31単位
	3年次	62単位
	4年次	93単位

以上の要件が満たされることが一応の目安となります。

次に平成5年度後期分の授業料免除の手続きを例に示すと次のような日程になっています。

- 願書の交付 6月30日(木)～7月2日(金)
出願説明会 6月30日(木)
- 出願受付 9月1日(木)～9月10日(金)
(教育学部は、教育実習のため7月29日(木)出願締切日)
- 免除の決定 11月中旬



アルバイトの紹介

学生部入口の掲示板に求人票が掲示されていますので、希望するアルバイトがあれば、厚生課奨学係まで申し出て下さい。

○ 一般業種

希望する求人票の掲示番号を窓口に申し出て、申込書に所定の事項を記入することにより斡旋を受けます。

斡旋を受けた後は、速やかに求人先へ電話連絡等を行い、指示を受けて就労してください。

○ 家庭教師

窓口での求職の方法は一般業種と同じですが、毎週火曜日と金曜日に抽選を行い、紹介者を決定しています。

なお、就労にあたっては、次の点に注意して下さい。

- ① 都合により就労できないときは、求人先へ連絡すると共に、奨学係で申込み取消手続きを行って下さい。
- ② 求人先でトラブルが生じたときは、自分だけで処理せず、まず求人先の責任者とよく相談の上、適切に対処すると共に、必ず、奨学係へ連絡して下さい。
- ③ 就労にあたっては、学生としての自覚をもってあたり、社会から信頼を受けるよう真剣に取り組んで下さい。

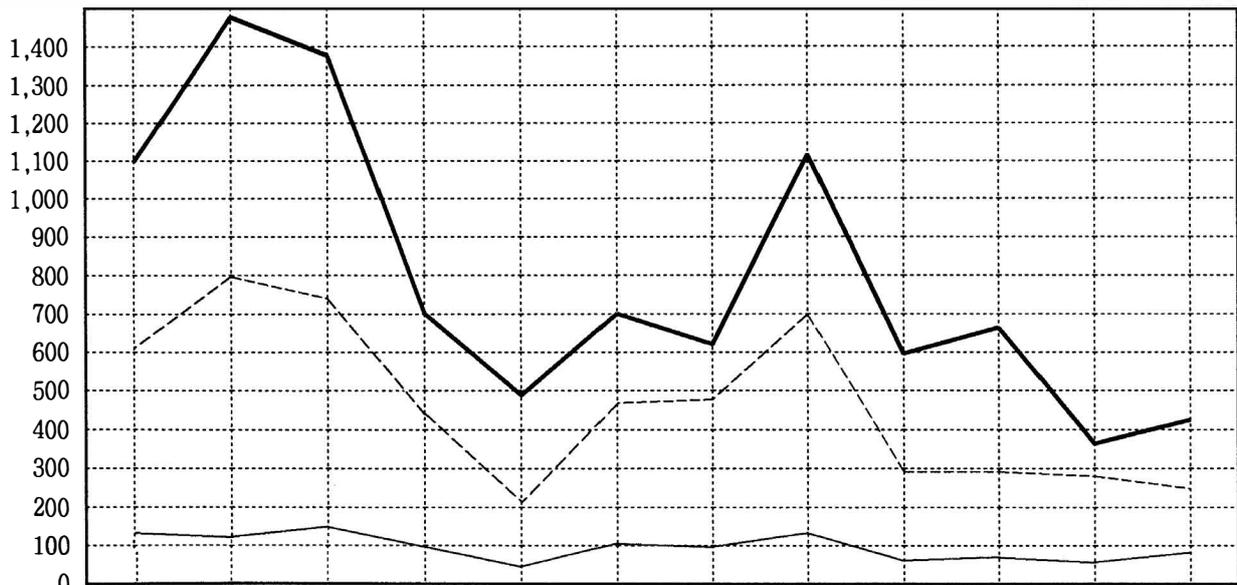
職種別アルバイトの斡旋状況及び賃金

平成4年4月～平成5年3月

職種	項目	求人件数	求人者数	紹介者数	具 体 例	賃 金 (円)
家庭教師		127	127	104	家庭教師	時給 小学生の場合 1,500 中学生の場合 1,650 高校生の場合 1,800
学習塾講師		70	475	257	塾の講師	時給 1,200～2,800
事 務		48	320	226	一般事務,宛名書き,校正 電話の対応,文献整理	日給 4,650～12,000
調 査		41	601	352	交通量調査,世論調査 客層調査,地温調査	日給 4,800～11,428
重 労 働		209	1,870	1,307	搬入,搬出,配達,清掃 引越し,洗車,荷作	日給 4,000～16,000
軽労働・ 軽作業		231	2,170	1,111	文書の封入,軽度の包装, 箱詰,検品,測量,駐車場整理, 歯科助手,電子部品組立	日給 4,800～16,000
特殊技能		6	19	15	コンピューターのオペレーター, デモ演奏,翻訳,パソコン入力	日給 5,200～8,000
販売店員		197	1,485	666	マネキン,レジ ガソリンの給油	日給 4,880～11,000
そ の 他		224	2,573	1,530	受付,デッサンモデル, イベントの手伝い,みこしひき, プールの監視補助	日給 4,000～26,000
合 計		1,153	9,640	5,568		

月別求人件数・求人者数・紹介者数の状況

平成4年4月～5年3月



項目\月	4.4	5	6	7	8	9	10	11	12	5.1	2	3
—求人件数	133	122	148	99	46	104	99	133	60	69	58	82
—求人者数	1,097	1,479	1,379	701	491	703	620	1,118	597	666	364	425
—紹介者数	609	798	741	443	215	469	476	698	293	295	283	248

お 知 ら せ

昨年、12月29日劔岳早月尾根から池の谷側へ滑落し行方不明となっていた山岳部員 北野直人学生を昨日9月29日午前8時56分、捜索をしていた本学山岳部員が池の谷の雪渓の中から発見いたしました。

今日まで、10名の山岳部員の献身的な努力と、ワングル部員及び数多くの山岳部OBの方々の絶大なる協力のもとに懸命の捜索活動により発見することができました。

北野学生が変わり果てた遺体で発見されたことは、誠に残念でありませんが、昨日、ご両親のもとへお届けできたことは悲しみの中にも安堵の極みであります。

今後は、二度とこのような遭難事故を繰り返さないために原因を徹底的に究明し、反省と対策を考えることが、北野学生に対する義務と手向けであり、彼の死にこたえる唯一の道であろうと思っております。

最後に、遭難当初からの富山県警山岳警備隊をはじめ関係各位のご協力に対し、また、教職員・学生各位他多くの方々からの捜索活動に要する経費の募金に対し、改めて、厚く感謝申し上げる次第でございます。

平成5年9月30日

富山大学劔岳遭難対策本部長

浜 谷 正 人

保健管理センターだより

野球の「攻撃」は「守備」であること

保健管理センター教授 中村 剛

精神療法を通して、神経症の若者と交際するのが私のおもな仕事のひとつである。ついでに、彼らのことばを窓口にして現在の若者一般の考えや行いをうかがい知ることでもできる。そんな情報を頼りに現代の若者を見ると、意外にも彼らが保守的であって、他人を傷つけまいと一所懸命に紳士的なふるまい方をしている様子が透視されてくるのである。そういった行動様式は無難であるかもしれないが、否応なしに既成の概念、大人の価値観といった、硬い型にはまったものになり易いであろう。一言でいえば、「頭が硬い」ということになる。

そもそも、若者というものは大人社会の既成概念なり、常識なりに違和感を感じてそれに抵抗し、一見無茶なことをするのが常態なのであって、老成した若者などというものはまことに魅力に乏しい。若者が唯々諾々として大人社会の規範に従っていると、社会の進歩は停滞してしまうであろう。なぜなら、いつの世でも、大人というものは50年先のことには無責任であり～自分はもうこの世にいないから～、現在を無事平穩に生きていきたいので、ことの善し悪しはともかく保守的にあろうとするからである。そこで大人は、いろんな手段を使って若者を保守的にしようとするのであるが、こんにちほど、この大人の陰謀が功を奏した時代は過去に無かったのではなからうか。近所の遊園地をみるがよい。中古のタイヤ、陶器の馬など、危険でなく大人の思惑通りに子供が遊ぶような仕組みが施されている。これでは子供が独創的な遊びをするのは無理で、しょせんは大人の仕組みだプログラムに従って行動する～遊ぶ～しかない。もう少し長ずると、偏差値というもっともらしい大人の陰謀によって左往右往させられる。かくして大人の鑄型にはめられた、そつはないが頭の硬い、一見紳士風な若者ができあがる。

そこで、「頭を柔かくしよう」というのが、若

者の惨状をみるにみかねた、偏差値不拘束的「大人」の提言である。既成の観念に捉われず、なにごとについても自分自身の目で見、心で考えるために、野球を例にとってみよう。

「1回の表、ジャイアンツの攻撃です」とアナウンサーがいうとき、だれしもが、ジャイアンツの選手がバッター・ボックスに立つ姿を思い浮かべるであろう。これがそもそも既成概念というものである。本当にこれが「攻撃」であろうか。「攻撃」だと思ふ人は固定観念の奴隷になっているだけで、ことの本質を見抜いていないのである。

一般に、ボール・ゲームでは、「攻撃側」は必ずボールを支配している。ボールは弾丸であって、これを敵陣の急所に命中させることによって勝利を得るのである。サッカーではパス・ワークやドリブルによってボールを敵陣深く持ち込み、敵の急所（ゴール）に突き刺す。バスケット・ボール、バレー・ボール、テニス、卓球、ハンド・ボールなど、すべて攻撃する方がボールをコントロールして敵を蹂躪するをもって得点とするのである。

ところが、野球ではボールを支配して敵を威嚇するのは、「いわゆる守備側」と呼ぶ方なのである。それでは、「いわゆる攻撃側」は何をしているのだろうか。

「いわゆる攻撃側」といえば、とにもかくにもこのボールが怖くて怖くてしかたがないのである。そこで、彼らはボールを見ると震えあがり、一目散に安全地帯（一種の塹壕）であるベースに逃げ込もうとする。ピッチャーの牽制球は実に怖くて、これが身体にタッチされるとランナーは即死するから、なりふりなどはかまっておれず、頭から滑り込んででもベースに逃げ帰らねばならない。塁間に挟まれたランナーを見よ。彼は敵弾を避けようと、いたずらに左往右往するしかない。「いわゆる攻撃側」のとり態度とは、かくも惨めで卑屈なものなのであり、ひたすら防衛に徹した者の姿

にほかならない。

ノー・アウト満塁という事態を想定してみよう。従来の固定観念に従えば「いわゆる攻撃側」の絶好のチャンスのはずであるが、こんな時にはえてしてピッチ・ヒッターが送り出される。チャンスなのに〈ピンチ〉ヒッターとはこれは如何に。この謎解きは野球界における積年の課題であったが、なんのことはない、チャンスとみたのは殆ど病的な錯覚であり、実は、「いわゆる攻撃側」にとってこれほど深刻なピンチはないのである。なにしろ塹壕はすべて丸腰の味方でいっぱいになっており、彼らは太平洋戦争末期の日本軍兵士さながら飛んでくるのは敵弾ばかりという戦場にとり残され、生きた心地もなくおろおろしている。こんなことではいつ大量虐殺の憂き目にあうか知れたものではない。この局面はまさに、白魚のような妖しい指でふともものあたりをぎゅっとつねられ（ピンチされ）て肉薄された時の、あの感じで、イタイようなコワイような・・・男にとっては道徳的にも〈ピンチ〉だ、最早一刻の猶予もならぬ。というので、^{きゅうち きゅうじ きゅうじょ きゅうききゅうきゅう}窮地の球児を救助すべく^{きゅうめいし}急遽救急救命士のような人が選ばれ、文字通りの〈ピンチ〉ヒッターとして危険な戦場に送り込まれるという次第である。ピンチだからピンチ・ヒッターの出番なのであって、これが仮にもチャンスだったら是非とも〈チャンス〉ヒッターに登場をお願いしたいのである。したがって、「いわゆる攻撃側」はここでも防御におおわらわなのである。

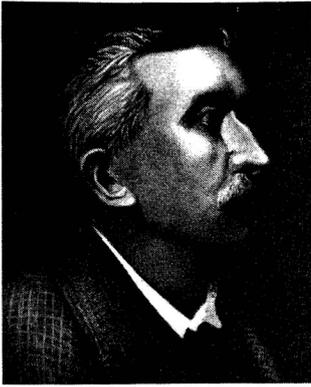
さらにだめを押せば・・・外野フライでタッチアップする走者とは、敵弾が身辺から遠くにあるのを奇貨として、一目散にマイ・ホームへ逃げ帰ろうという卑怯な逃亡者にすぎない。ホームランという一見格好よく見えがちだが、これはもう防御専一に用意された一種の楯（バット）で防いだ敵弾が十分遠くに落ちたのを幸い、家へ逃げ帰る時間を稼ぐことができたということである。したがって、ホームインのことを「生還」というのは、敵の猛攻に耐えて「生きて還ってよかったね」くらいの意味で、誰の翻訳かは知らぬが、少なくともこの訳者と〈ピンチ〉ヒッターの名付け親だけは、野球における「攻撃」と「守備」の本質をよく把握していたものと思う。

以上、生活の役に立ちそうもないことを縷々論

じてきたが、総括すると、こんにち野球用語として使用されている「いわゆる攻撃」とは「守備」のことであり、その逆もまた真なることがお分り頂けたと思う。要は既成概念に捉われないで、この本質を直視・洞察する習慣を身につけて頂きたい、と言いたかったのである。このついでに、野球用語に代表される〈日本語の乱れ〉も糾して頂ければ幸いである。

議論・論争は若者の特権である。くだらないなどと大人ぶらずに、少々相手を傷つけてもよいから侃々諤々おおいに論じあってほしい。大人の押しつける常識などの中には野球用語のように、よくみると本質と乖離したものがいっぱいあるかもしれないのだから。





「へるん文庫」縁起 4

人文学部教授 平 田 純

ハーンが奇異なもの、不思議なものに心を引かれ、東洋へ憧れていたことは、蔵書の中の神話、民話に関するものから、知ることが出来る。例えば、フレイザーの『金枝篇』やベックフォードの『ヴァテク、アラビア物語』、フィスクの『神話と神話作者』、またキートリーの『古代ギリシャ、イタリーの神話』と『妖精神話』、パーシーの『北方の古代』などである。

歴史への関心も大きかった。フィスクのアメリカの歴史もの、ガヤーレの『ルイジアナ史』3巻、聖書考古学協会の認可を得て刊行された『過去の記録』12巻（アッシリアとエジプトの記念碑を綴ったもの）、プレスコットの『メキシコ征服史』などが目につく。

哲学、心理学などでは、フィスクの『宇宙哲学』他7巻、ニーチェの『ツァラトゥストラ』、ウィリアム・ジェームズの『心理学原理』、リポーの心理学関係7巻があるが、なんと言ってもハーンの思想の根幹となったハーバート・スペンサーの著作が40冊を数えていることが目につく。『総合哲学体系』10巻は1, 2, 3巻が各3部あり, 4, 5, 6, 7巻が各2部収められている。その内で★印の付いたものが15冊ある。哲学関係ではカントを初め、ドイツ観念論関係が一冊もないのが特徴である。宗教（仏教）に関する書籍としてはマックス・ミュラーの編纂にかかる『東方聖書』（全50巻中の21巻。ミュラー訳の「ウパニシャッド」が★で入っている）、オルコット『仏教教義問答』やビールの『仏教教典：法句経』、デーヴィズの『仏教、その歴史と文献』などがあり、キリスト教関係ではハーンの愛好した画家グスタヴ・ドレーの百点の絵を収める『バイブル・ギャラリー』と聖書がある。

『カタログ』でオリエンタリア（東洋関係）と

分類された101冊は日本関係と中国関係、インド・ペルシャ・アラビア等の三部に区分けされている。さすがに日本関係は68冊と多く、アストン（『日本文学史』、『日本文語文法』ほか）、チェンバレン（『古事記』訳、『日本口語文法』ほか）、グリフィス（『みかどの帝国』）、ロウエル、モース、サトゥ、ライン（『日本誌』）などの著作が収められている。著者からの献辞とサイン入りの本がいくつか見られる。チェンバレン訳の『古事記』の表紙裏にはYokohama 1890と記入されているし、新渡戸稲造の*Bushido* には見返しに

To Lafacdio Hearn

the Master Interpreter of the Japanese Mind
this little Book is gratefully offered by the
Author. Malvern Pa. U.S. I. 12, 1900

とある。だが、この日本関係の本の中に★印は2冊を数えるだけである。

中国関係は10冊でしかないが、★印は6冊であり、インド・ペルシャ・アラビア関係は23冊中20冊に上っている。（この頃に付いて、筆者はなにもコメント出来ないことをお詫びせねばならない。識者の教を乞いたい。）

語学関係では英語史、英文法、古英語入門、作詩法、語源、ラテン語入門、フランス語文法、スペイン語の学習書が見られる。辞書類ではラテン語、フランス語、ヘボン英和・和英辞典、1896年版のウェブスター『インターナショナル英語辞典』、ブルーワーの『フレーズとフェーブル辞典』、ロジェの『シソーラス』、それにクルーデンの『聖書コンコーダンス』などが目を引く。

民俗、歴史、哲学、宗教、東洋、言語関係の英語でかかれた蔵書計438冊中、★印の付いたものは94点である。

次は科学関係の書物を見ることにしよう。スベ

ンサー哲学がハーンのものの方の中心にあたったことは既に述べたが、それはダーウィンに始まる進化論を骨子とするものであった。果して『種の起源』を初め所蔵されているダーウィンの著作5点はすべて★印が付いている。T・H・ハックスレーも選集9巻他が収められている。その他進化論者のウォレス、ヘッケルのものも見られる。ウォルター・バジヨットの「物理学と政治」、ハーバート・スペンサーの「社会学研究」やドレーパーの「宗教と科学の闘争」などを含む『インターナショナル科学シリーズ』18冊（★印16冊）、『フンボルト科学ライブラリ』の12冊、ホワイトの『セルボーンの博物誌』、ファーブルの『昆虫記』も見られるが、本とタイトルからしても、昆虫や草花、植物、鳥類、宇宙論、太陽系、物理学など関心の広さを窺うことが出来る。

「日本アジア協会誌」45冊を含めて、英文の定期刊行物が100点あるが、「月刊アトランティック」と「月刊アメリカ評論論評」など、ハーン歿後に加わえられたものもある。

ハーン自身の作品として、1922年からホートン・ミフリン社によって刊行された『ラフカディオ・ハーン著作集』全16巻のauthor's copyと、アースキン教授が編纂した『文学の解釈』、『詩の鑑賞』、『人生と文学』、『作家に語る』、モールド教授の編纂した『ヨーロッパ・東洋文学論』が収められている。

以上で、大まかではあるが、ヘルン文庫に所蔵される英語本に付いての紹介を終わりたい。

外伝的に言えば、ハーンが子供に英語を教えたときに使ったテキストが何冊もあり、そこにハーンが書き込んだ仮名文字が見られる。

また、ハーンの著作としては上記の他に、彼が訳したゴーティエの『クレオパトラの一夜』、アナートル・フランスの『シルベストル・ボルナールの罪』、フロベールの『聖アントニニーの誘惑』があり、モーパッサン、ゴーティエ、A・フランス、ゾラ、ピエル・ロティなどの短編の訳業もある。さらにヘンリィ・ワトキンに宛てた手紙を集めた『大鳥への書簡』を初め、ビスランドの編纂したもの、その他多くの書簡集と、アメリカ・日本での記者時代に執筆した記事を集めた作品集（歿後他の人が編纂した）がある。それも、ヘルン関連文献として図書館が所蔵している。彼の著作は、翻訳以外、いずれも日本語に訳されている。

訂正

前回（3）の内

第4パラグラフ、2行目の
192を 189に

第5パラグラフ、4行目の
12点を 8点に

訂正します。

▽▲▽▲▽ 学園ニュース編集委員 ▼▲▼▲▼

学生部長	浜谷正人	経済学部	伊藤格夫
人文学部	中村雅之（顧問）	〃	長谷川隆
〃	岩井瑞枝	理学部	広岡公夫
教育学部	呉羽長（顧問）	〃	鳴橋直弘
〃	原田嘉昭	工学部	女川博義
		〃	長谷川淳